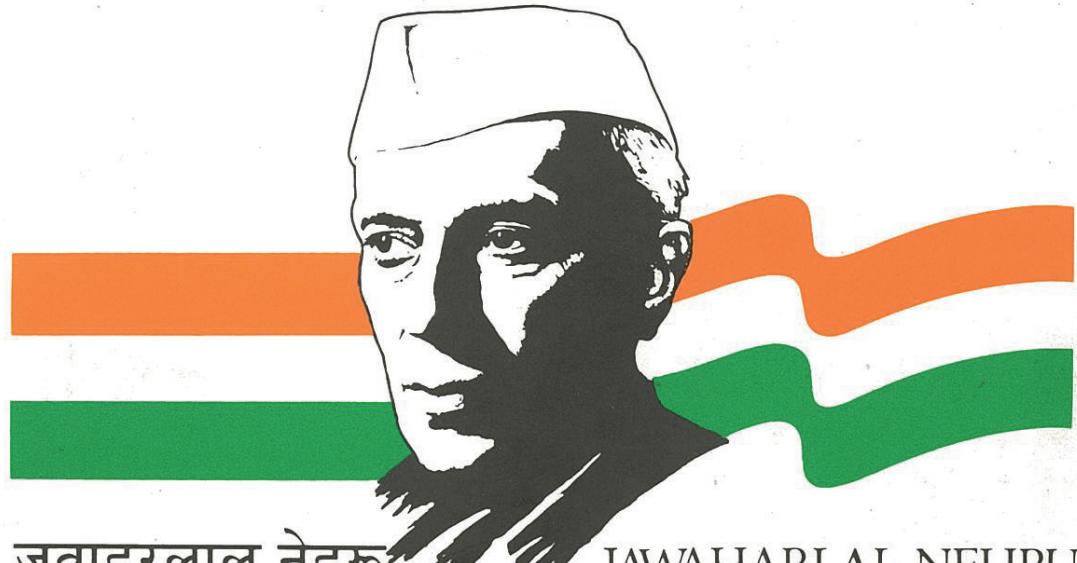


日印文化

創立30周年記念特集号



जवाहरलाल नेहरू
जन्मशती

JAWAHARLAL NEHRU
CENTENARY



KJICS

関西日印文化協会

KANSAI JAPAN-INDIA CULTURAL SOCIETY

कान्साई जापान-भारत सांस्कृतिक संघ

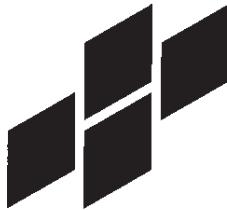


地球360度の金融、経済コンサルティング。

うちの銀行



阪神銀行



いつも、ニューウエイブ。

時代の波を敏感にキャッチし、
しなやかな柔軟性をもって対応する。
そして、高品位なサービスを提供し、地域とともに成長する。
今後、私たちが目指す方向です。
いつも、ニューウエイブ。

HANSHIN BANK

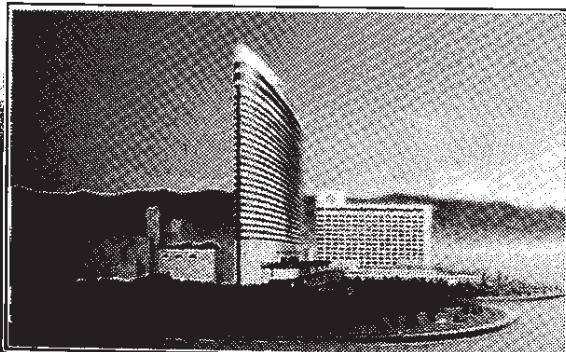
テレカ・タイプの新500円商品券
スイート カード

- 結婚お祝い・出産お祝い、またそのお祝い返し
- 就職お祝い・進学お祝い・お誕生日
- 父の日・母の日・クリスマスのプレゼントに
- その他イベントの記念品などに。

通用店●大丸(大阪・心斎橋・大阪梅田・和歌山・東京・京都・神戸・新長田・須磨・芦屋)、町田大丸くら寿ビーミー、大丸ピコック各店。



DAIMARU
神戸店 (078)331-8121
新長田店 (078)643-2951
須磨店 (078)791-3111
芦屋店 (0797)34-2111



旅のテイストは
ホテルで決まります。

 ポートピアホテル

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目10番地1

Tel. (078) 302-1111 Fax. (078) 302-6877

《駐車場550台収容》

■東京営業所 ☎ (03) 574-6500 ■大阪営業所 ☎ (06) 252-7200



ごあいさつ

桑原泰業

関西日印文化協会会長

日本文化の原点はインドとされます。インドは仏教文化を通じて日本と因縁が深かったのであります、現在でも、政治的にも経済的にも関係は極めて密であります。

1957年に、故ネルー首相が来日、文化協定が締結されたのを記念して、インド政府の公認団体として1958年4月に「関西日印文化協会」が設立され、爾来、文化交流を通じ日印両国の相互理解と友好親善の促進のため活動してまいりましたが、このたび創立30周年を迎えるにいたりました。これひとえに皆さま方のお力添えの賜ものと深く感謝申しあげます ときあたかも、故ネルー首相生誕百年の記念すべき年でもあり、またラジブ・ガンディー首相を迎えてフェスティバル・オブ・インディアが日本各地で成功裡に開催された中で、創立30周年を迎えることができましたことは、誠に意義深いものがあります。こゝに、創立30周年記念特集号「日印文化」を皆さま方にお届けできることを何よりの悦びとするものであります。

なお、本誌編集について、松蔭女子学院大学学長の黒沢一晃先生より絶大なるご協力をいただいたことに、深く感謝の意を表したいと存じます。

皆さま方のいっそうのご協力、ご鞭撻の程をお願い申しあげます。



『関西日印文化協会』創立 30 周年記念 お祝いの言葉

下巣

内閣総理大臣

このたび『関西日印文化協会』が、創立 30 周年を迎えたことを心からお祝い申し上げるとともに、これまでの永年にわたる関係各位のご尽力に対し、改めて敬意を表したいと存じます。

私は、1988年4月から日本全国で繰り広げられた『インド祭』の開催に合わせて来日されたインドのラジーヴ・ガンディー首相と親しく会談することによって、日印両国の友好親善関係が増進するとともに、首脳間の個人的な信頼関係も一層確立されたことを大変喜ばしく感じております。その際、日印両国は経済面での協力に加えて、文化面での交流をもさらに拡充・強化していく必要のあることで意見の一致を見ました。

また、私は昨年11月に政権を担当して以来、「世界に貢献する日本」の建設を施策の一つとして掲げ、これを具体化するため、平和のための協力、我が国の政府開発援助（ODA）の拡充、そして国際文化交流の強化を3つの柱とする『国際協力構想』の推進に力を尽くして参りました。

すでに、日印間には友好関係と文化交流の長い歴史がありますが、とくに私たち日本人にとって“仏教発祥の地”としてのインドは特別の存在であり、いわば“日本文化の原点”あるいは“心のふるさと”といつても過言ではないと思います。

とは云え、日本とインドの間には、文化や習慣、風土において異なる点もかなり多く、今後このような異質の文化が出会い、人的交流が活発化することによって相互の理解が深められ、新しい時代の文化が創造されることを期待してやみません。

21世紀を目前にした今、私たちは官民一体となって日印友好関係の確かな基礎を固めつつ、世界の平和と繁栄を築くために力を合わせて前進することが必要だと信じます。

この30周年の慶事を機に、貴協会ならびに『日印文化』の一層の飛躍を祈念して、お祝いの言葉に代えさせて頂きます。

MESSAGE

Prime Minister Noboru Takeshita

I offer my heartiest congratulations and respect to the Kansai Japan-India Cultural Society on the occasion of its 30th Anniversary Celebrations.

I had the good fortune to have a friendly talk with His Excellency Prime Minister Rajiv Gandhi who kindly paid a courtesy visit to our country to celebrate the "India Fair" that was so successfully held throughout Japan from April this year and I feel very happy that, along with the promotion of friendly ties between India and Japan, personal trust between us has been strengthened. During the talk we agreed that it was very necessary to expand and strengthen the cultural exchange along with economic co-operation.

Since I took the premiership in November last year, I have made it quite clear that I will endeavour to make Japan a country that will work for the benefit of the World, and have tried to materialise the "International Co-operation Scheme" consisting of the following three objectives:- Co-operation for the Promotion of Peace, Expansion of Aid for Economic Development and Strengthening of International Cultural Exchange.

India and Japan have had a long history of friendly relations and cultural exchanges, and it is no exaggeration to say that India, in which Buddhism was born, has attracted the respect and adoration of us Japanese and it is looked upon, so to speak, as an "Origin of Japanese Culture" or as a "Spiritual Home".

It is true, however, that there are so many differences between our cultures, customs and ways of life. I sincerely hope that, with the further enhancement of exchanges between our two countries, we will get to know each other better and new cultural ties will be created in the generations to come.

It is my firm conviction that we should go a long way towards laying an ever stronger foundation for future friendship and in so doing we should try to work together for World Peace.

I respect the Society for the good work it has done and wish it every success in its future endeavours.



PRIME MINISTER

MESSAGE

I am happy to note that the Kansai Japan-India Cultural Society has now completed 30 years of active work towards the promotion of India-Japan cooperation and mutual understanding.

India has always looked upon Japan with admiration for its economic and technological achievements. Scholars and statesmen like Rabindranath Tagore and Jawaharlal Nehru had studied and written about its Asian personality, unique cultural achievements and social harmony.

The Japan Month held in India last year as well as the Festival of India in Japan in 1988 have provided each of us rare insights into the others culture, way of thinking and historical achievements. It is through the activities of organisations like yours that greater people to people understanding can be created.

I wish the Society success in its future activities.

New Delhi
October 28, 1988

お祝いの言葉

ラジーヴ・ガンディー
インド国総理大臣

日印両国の協力と相互の理解に献身された関西日印文化協会にはこのたび創立30周年を迎えられました。心よりお慶び申し上げます。

わが国は常に、貴国のすばらしい経済発展ならびに技術進歩に敬意を払って参りました。ラビンドラナート・タゴールやジャワハルラール・ネルーといったすぐれた学者や政治家も、貴国民の卓越した国民性、類稀なる文化、社会的調和について驚嘆のまなざしをもって語っています。

昨年わが国において開かれました『日本月間』ならびに日本で開催されました『'88インド祭』は、両国民が、相互の文化、思考方式、ならびにそれぞれの歴史について貴重な洞察を得ることの出来る機会を与えてくれました。正に貴協会のごとき機関の真摯な献身的活動によってこそ、国民と国民との相互理解が深められ促進されるのであります。

創立30周年を迎えた貴協会のますますのご発展をお祈りいたして
私のお祝のことばとさせていただきます。

ラジーヴ・ガンディー



祇園精舎跡の発掘調査

網 干 善 教

関西大学教授

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり」という有名な言葉は『平家物語』の冒頭の一節で、殆んどの日本人は知っている。その祇園精舎の跡は、インドのウッタル・プラデッシュ州、バハライチ県・シュラヴァスティ市にあって、サヘート遺跡と呼ばれている。

祇園精舎は仏教經典では「祇樹給孤独園」と呼ばれ、釈迦当時のコーサラ国の首都・舍衛城の南郊外にあって、ジェータヴァナと称されていた。舍衛国の長者・須達が釈迦を迎えるために祇陀太子の援助をうけて創建した寺院である。以後釈迦はこの地に来つて多くの説法を行つた。日本で毎夏行われる「お盆」の教えを説いた『仏説盂蘭盆經』や浄土教の所依の經典である『仏説阿彌陀教』などはこの祇園精舎で説かれたものであつて、この場所こそ日本佛教の原点であるともいえる。

18世紀中頃、英國人カーニングガム卿が遺跡の一部を発掘調査して以来、何回か発掘調査されたが、10万平方メートルほどの広大な土地であり、その全容は十分にわかっていない。

関西大学では創立100周年をむかえるにあたり、記念事業の一つとしてインド国政府機関であるインド考古調査局と共同してこの遺跡を発掘調査することになった。

関西大学では日印共同学術調査団を組織し、調査隊を派遣し、3年間にわたる調査計画が承認され、1986年から実施してきた。本年も10月中旬より第3次派遣調査隊を編成して渡印する予定である。

調査はいくつかの着眼がある。その一つは正確な遺跡の測量図を作成することである。これによって祇園精舎の様相が誰にも理解で

きるということになる。この作業は発掘調査の合間をみて2ヶ月間かかって完成させた。

次に遺跡地内の遺構の確認である。第1次調査では遺跡地内の南地区を発掘した。ここではレンガ積みの中世期の建物が相重って出土した。第2次調査は地域内の各所に試掘溝（トレーナー）を設定し、祇園精舎が長い歴史のなかでどのように存在し、経過してきたのかを調べるために発掘を行つた。

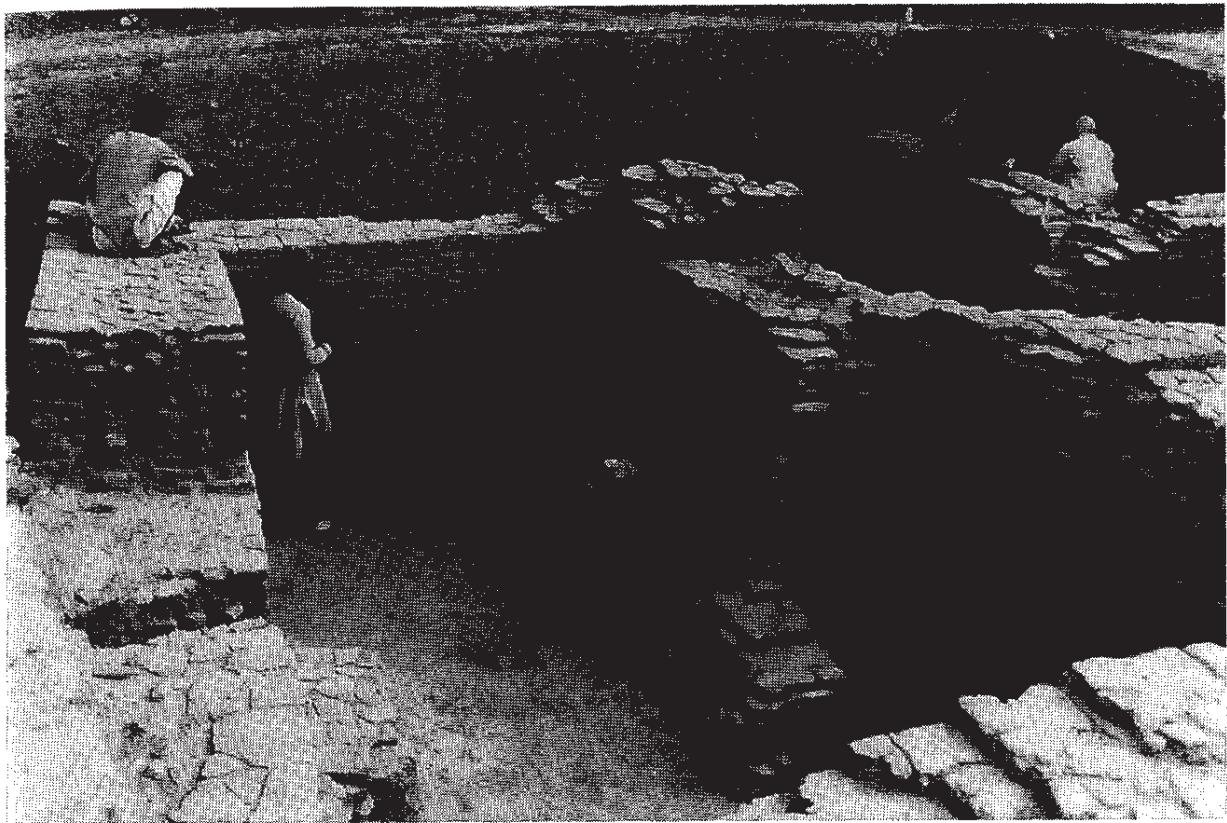
また、西北地区では紀元1世紀頃のクシャーン朝と推定される大規模な沐浴池を発掘し、その東側の隣接地では一辺約20mもある大ストゥーパ（仏塔）を、その周辺からはモナストリー（僧院）を発掘した。これらの遺構は紀元4～5世紀のグプタ朝の頃のものと考えられる。

遺物も大量に出土した。10万点ほどの土器、コイン、テラコッタの仏頭や仏像の部分、蓮華文の彫刻のある欄楯などかつての祇園精舎の繁栄を知ることのできるものである。

日本には佛教徒が多い。また、日本の文化史を代表する国宝、重要文化財の指定物件も大多数が佛教文化である。歴史的にみて日本人の心の支えになってきたのは佛教思想であつて、現在使用の言葉のなかにも佛教に由来するものが多くある。いわば日本は佛教国であるということは間違いない。この佛教遺跡をインド政府と関西大学がプロジェクトを組み、共同して発掘調査し、その実態を少しでも明確にしようとするこの学術調査は意義あるものと考える。

経済大国といわれる日本が、発展途上国に金銭を援助することだけが国際理解・国際協

祇園精舍跡の発掘調査現場



力ではない。仏教遺跡の発掘調査を通じて、
インド社会の各層の人たちと生活を共にし、
苦労をわけあって、その目的を達成しようとする働きは、まさしく日印文化の交流であり、
協力であると思う。そしてた行為は恵まれた
自然と生活環境の中で育ってきた日本人にとって辛苦なことであるが、日本人としてなさ
なければならない仕事であると自覚し、この
事業の遂行に使命を感じているのである。

なお、この調査には壇阪寺長老・常盤勝憲
師と松沢義秋氏の御支援と御協力があり、記
して感謝の意を表するものである。





輪廻思想と業説

石上 玄一郎

作家・大阪成蹊女子短大名誉教授

インド人の葬法は古来、荼毘のみであるかのように思われているが、リグ・ヴェーダ時代には土葬もあり『アタルヴァ・ヴェーダ』には台上葬や遺棄葬すら見えている。アーリア民族の葬法はもと土葬であったに違いないが、高温多湿の風土の下へ移動するにつれ、必要に迫られて葬法を変えざるを得なかったのであろう。

火葬は遺骸の徹底的破壊であるから来世において靈魂は肉体などを必要としないかというと必ずしもそうでなく、『リグ・ヴェーダ』では死骸の保全をうたってもいるのである。また「死者を蘇生させる歌」なるものがあるのを見ると「蘇生」や「復活」の思想もあつたに違いない。もしそうなら、遺体の保全は当然である。

死者の遺体を荼毘に付す際、古代インドでは山羊もまた共に焼く風習があった。山羊は道祖神ブーシヤンの車を牽くものと『リグ・ヴェーダ』にはあるから、おそらく冥界への道案内でもあろう。

『アタルヴァ・ヴェーダ』によれば、この山羊に闇い谷をわたり、はるかな道を越えて死者に浄土へ導くことにあっているのだ。

古代インド人の靈魂觀の特殊性は何といつてもその輪廻思想にある。一方、古代エジプトには転生の思想はあっても輪廻のそれはなかった。もっとも古代世界にあっては、トラキアに起りギリシアや南イタリアに伝播したオルフェウス教には「必然の輪」あるいは「運命の車輪」なる形での輪廻思想とおぼしきものはあったが、トラキアはB.C. 512年ごろペルシア王ダレイオス一世の支配下にあり、

それより早くインドのガンダーラ地方は、すでにB.C. 540年、ペルシアの版図に入っているから、インド思想がペルシアを仲介としてトラキアに影響した可能性は決して否定できない。してみれば、輪廻思想は古代インド固有のものであるといつても、まず差支えなかろう。

輪廻とは生死を超えた靈魂の遍歴であり、解脱にいたるまでは、生に生をかえ、いくたびか死をくりかえし、流転してやまない魂の旅である。

これはヴェーダ時代には未だなく、プラーフマナ時代になってはじめて出現しているが、この時代にはアーリア民族に征服された先住民族の思想が、早くからこれと血をまじえていたクシャトリヤ階級によって漸く思想界の表面に浮上はじめた時代だったのである。

輪廻思想は本来、アーリア民族のものではなく、原住民の民間信仰に起源することは多くの古ウパニシャドにおいて、プラヴァーハナ王が、バラモンの子・シュヴェタケートに『五火二道』の輪廻説を説いたという記事によって明らかである。

「五火」というのは、人が死後、火葬されると、その烟は天に上って月に入り、雨となって地上に降って作物となり、人に食われて精子となり、母胎に宿って生まれるという輪廻の五段階をいうのであり、「二道」とは、「神路」と「祖道」とであって、「神路」とは死者の魂が太陽に上って再び地上に戻らない道程をいい、「祖道」とは前述の「五火」の順路を通って現世に復帰することをいう。

そして本来ならこうした宗教思想に関する

限り、バラモンがクシャトリア（王族および武士階級）に教えることはあっても、クシャトリアが逆にバラモンに教えるなどということはなかったのである。

この主客転倒ともいるべきウパニシャッドの記事の説明は、輪廻思想はもともと太陽信仰をもっていた原住民のものであり、原住民と血をまじえ、その気質を多分に受けついでいたクシャトリアが、この「五火二道説」をバラモンに伝えたということであろう。この輪廻思想と不即不離の関係にあるのがこれもインド特有の業説である。輪廻思想はこの業説を基盤として生れたのであり、業説なくして輪廻を考えることはできない。

業（カルマ）とは行為の意味であるが、それは無明の中の行為である。無明（アビドヤー）とはいわゆる「転倒夢想」であって、この我（アートマン）ガ、本来は梵即ち大宇宙の最高原理たるプラフマンであることを忘却し、我執にとらわれている状態をいう。したがって業はまた業を生んで際限なく生をかえ、死をくりかえして無明の中を流転し続けるのが輪廻である。

原住民がなぜ、こうした業説にもとづく輪廻思想を抱くに至ったかについては論議の分れるところであろうが、私見をもつてするなら、それはインダス文明の没落と軌を一にするというのほかはない。

かつてインダス流域をうるほしていた南西モンスーンが東に移動することによってパンジャブ地方の乾燥化が起り、インダス河谷の耕地は塩害によって荒廃した。彼らはその荒れはてた土地を見捨てて東へ移動し、ガンジ

スの流れに沿って下ったが、そこでは猛獸、毒蛇、悪疫、瘴癟との不断の闘いののち、遭遇したのは集落を耕地ぐるみ押し流し埋没させる洪水であり、氾濫であった。

こうした自然の暴威に加うるに、侵入異民族による殺戮、略奪と奴隸化、カーストなる差別的身分制度の設定が行はれた。

原住民にとって、この世界はまさに苦界であり、人間は「悲の器」なのであった。そして不可抗力ともいるべき災禍と、また災禍が同時に恩恵であるという矛盾の自己同一。（例えば、東西モンスーンは洪水、氾濫、人畜の被害をもたらしあるが、それはまた、耕地に灌漑用水を供給する恩恵であるという意味である）。これを自らに納得させることは甚だ困難であったに違いない。

自分はなぜ、生まれながらにしてバラモンではなくスードラ（奴隸）なのか、なぜ自分が生涯刻苦して開拓した耕地を、家屋敷・家畜もろとも一夜にして河中に流失せねばならないのか、またなぜ悪人が栄え義人が陋巷に窮死せねばならぬのか、なぜ信仰厚き者が不治の病におかされ、徳高き者が非命に倒れるのか・・・・。

イスラエルのヨブが「我は全能者にもの言わん、我は神と論ぜんことを望む」としたこの世の不条理についての解明を、古代インド人は、こうして業説にもとづく輪廻思想によって行はほかはなかった。

つまりアートマンの運命を、この果敢なき現世に限定することなく、茫々たる過去と、知られざる彼方の未来にまで拡張することによって、納得せんとしたのである。



インド経済の現状

黒澤一晃

松蔭女子学院大学学長

1984年のラジーヴ・ガンディー首相の登場後、インドの経済自由化政策には一層の拍車がかかってきた。その目的とするところは輸入の自由化、産業許認可規制の緩和、外貨・外国技術に対する規制の緩和などの諸措置によって、インド工業の近代化とその技術水準の向上を図ることである。最近のこうした政策の変更は、多分に韓国・台湾などいわゆるNIEs諸国などの目覚ましい経済成長に刺激されたものと言えよう。事実、これらの諸国と対比すればインドの経済成長実績は格段に見劣りする。すなわち、1965年から1980年までのインドの国内総生産の年平均成長率はおよそ3.5%にすぎず、NIEs諸国のそれ（たとえば韓国の同時期の成長率は9.5%）と比較しても遙かに低い。こうしたインド経済の実績の悪さはインドがそれまで採ってきた経済発展戦略に反省を迫るものであった。

周知のように、インドは1947年8月に実質200年にわたるイギリスの植民地支配を脱して独立国家として出発した。1951年以降はいくつもの5か年計画を通じて経済建設を進めてきたが、植民地支配下における長い経済的停滞と歪みは実に大きく、経済計画に課せられた課題も膨大にして苛酷なものであった。当時、ネルー首相の主導のもとに進められたインドの経済計画は世界の注目を浴び、特に第2次5か年計画は重工業・資本財部門に重点を置いた計画として脚光を浴びた。インドの経済計画のユニークな点は、そのスローガンである「社会主义型社会」ということばにみられるように、分配面で社会主义的的理想を念頭に置きつつも民間部門を公共部門と共存

させる混合経済体制をその前提としてきたことである。しかしながら実際には、投資許可や価格統制などの広い範囲にわたる統制によって國家が民間部門を強く規制し、こうした規制の体系がインド経済の効率性を損なってきたことは否めない事実である。また基本的には輸入代替に重点を置いてきた1950年代以降の貿易政策の結果、一方では工業製品の多くの重要品目において国産化比率が上昇したが、他方でこうした戦略はインドの工業の国際競争力を低いままで留めてきた。すなわちインドは、「サンダルから人工衛星まで」といわれる国産化に成功した反面、インドの工業は完全にその競争力を失うこととなった。最近の経済自由化政策は、このようにいわば温室のなかに置かれ、完全に国際水準から取り残されてしまったインド工業の非効率性、国際競争力の欠如を打破しようとする試みである点が理解されねばならない。そこにはNIEs諸国が行なってきた市場メカニズムを重視した輸出志向型の経済発展戦略から大いに学ぼうとする意欲が感じられる。

しかしながら同時に、インドを単純にNIEs諸国と比較することには無理がある。その理由は、インドが他の発展途上国とは根本的に異なる諸条件を有する国であるという点にある。まず第1に、インドは320万平方キロメートルの総国土面積を有し、1987年度人口が8億を越す大国である。第2は、広大な国土における自然的諸条件には大きな地域的多様性が見られるということである。第3は、インドが宗教・言語・民族・カーストならびに階級といった複合要因の錯綜する国である

という事実である。更にまた第4の条件として、インドが世界最大級の人口を有する議会制民主主義国であり、かつまた連邦制をとっているという点に注目する必要がある。こうした体制をとっているが故に、インドは様々な利益団体の利害を調整し、経済の種々の部門と各地域間の均衡を維持するという特殊な困難を経験せねばならなかつたのである。このような諸点を考慮するとき、インドが過去においてN I Es 諸国がとってきたような、外国市場をあてにした輸出志向型の工業化戦略をとり得なかったことも充分に理解できよう。なおこの際とくに考えなければならないのは、インドの人口のおよそ40%が今なお絶対的貧困の状態にあるということである。彼らは必要最低限カロリー相当量を摂取するための食糧購入に必要な所得すら得ることが出来ていない。議会制民主主義体制を探りながら、こうした膨大な貧困人口が存在するということは、インドが効率性のみを追求する経済政策をとり得ない一つの大きな理由と言えよう。

よくインドは貧困な国であるといわれる。しかしこれは決してその工業化が遅れているから貧困なのでなく、その低生産性とくに主産業である農業における生産性の低さがインドの貧困の根本原因なのである。

しかしながら、1960年代に始まつたいわゆる『緑の革命』（高収量品種の導入、灌漑施設の拡充、化学肥料の増投など）の成果によってインドの農業は大きく変貌し、一昨年の大旱魃で備蓄の多くを費消したとはいえ、最近では食糧の自給を達成しかなりの食糧備蓄

すら保有するにいたつた。植民地時代のインド農業の状態からすると、これは目を見張るような成果と言えよう。だが、この農業生産の発展も地域的にみるとパンジャーブ州やハリヤナ州など一部地域に限定されており、またその恩恵は人口の約40%を占める絶対的貧困層に届くものにはなっていない。こうしたことから、インド政府は、ガリービ・ハタオ（貧乏追放）など、これらの貧困層を対象とした様々の諸政策をとってきたのである。

現在、インドの経済は岐路に立っていると思われる。一方で、「ハイコスト経済」とよばれるインド工業の非効率性の打破という至上命令を前にして経済自由化政策は避けることの出来ない選択であったと言えよう。しかしながら、他方でこうした政策選択が国民経済に投げかける波紋は決して小さいものではあり得ない。経済自由化政策は、外国からの技術の導入によって、自動車・電子産業などを中心とする耐久消費財産業を活性化したが、これらはインドではなくまで人口の上位10~20%を対象としたエリート的消費財に過ぎず、インド経済の階層間の不平等性をいっそう浮き彫りにするかたちとなつてゐる。こうしたことは、最近の政治の動向にも反映されており、ラジーヴ・ガンディー政権に対する一部の批判もその一端と言えよう。

インド政府の有する政策選択の幅は限られており、一方で経済的な分配の側面に充分な配慮を行ないつつ、他方では経済自由化を漸進的に進めなければならない。いわば、経済自由化政策がはらむ政治的コストを慎重にかりながら進む必要があると言えよう。



『最近の日本人渡航者の実績と 今後の見通し』

K. K. グプタ
エア・インディア 西日本・韓国地区 支配人

1987年に運輸省が提唱した「テン・ミリオニ計画（日本人海外渡航者1,000万人計画）」が円高影響のもと、初年度で既に約683万人（対前年比23.8%増）を記録した。当初、600万人が一応の目安とされていたことからも、その予想以上の増加には驚かされる。この調子だと依然として続く円高傾向と、それにより発生している国際航空旅客運賃の方向別格差の是正のための日本発航空運賃の全面的な値下げ等のプラス要因によって、1988年度の総数は800万人を越え、850万人に近い数字が予想されている。これは、国際観光振興会が発表した1988年1～10月における日本人渡航者の数が約704万人で、既に昨年同期の実績を24.2%も上回っていることからも容易に裏付けできる。

ところで、インドへの渡航者に注目してみると、残念ながら、日本人にとっては、インドという国はまだまだ遠い存在のようだ。1987年の実績も31,876人（対前年比16.5%増）と少数で、1987年度渡航者総数のわずか0.46%のシェアしか占めていないのが現状である。これはインド政府ならびに関連諸機関の日本国内でのPR不足のため、日本人の間でインドが旅行目的地として充分認知されていない事と、現在日本・インド間を就航しているエア・インディア、日本航空等の航空会社の便数が日本から米国・欧州・東南アジア近隣諸国への各航空会社のそれと比較して甚だ少なく、そのため席の供給数が限られ、需要があってもそれに追いつかない時がしばしばあることもその一因をなすと考えられる。

然しながら1988年は4月から10月末にかけて日本各地で「'88インド祭」が展開され、4000年以上の歴史をもつインド古典舞踊、その他、様々な芸術・文化イベントが催された。関西でも神戸を中心にインド四大舞踊・古典芸能のタベ・インド部族芸術展など多彩な催しが、関西日印文化協会をはじめとして、各々の地方自治体および所轄の国際交流協会、エア・インディア、インド人コミュニティー、その他様々な方面の方々のご協力で実現の運びとなり、一般市民に紹介され大成功を収めたことは周知の事実である。またこのことが、開催以前から、新聞・テレビ等のマスコミにも広く取り上げられ、単にインドPRの効果のみならずインドに関する正しい認識、新しい知識を一般の日本人に植えつけたという点で、大いに評価される。

国際観光振興会によれば、1988年上半期（1～6月）に日本からインドを訪れた渡航者総数は16,274人で、前年の同期より11.2%増となっている。下半期（7～12月）は、暑中休暇・年末年始時期を含め、インドの観光シーズンとともに合致するため、例年、上半期以上の渡航者数が記録される。更に、先に述べた「'88インド祭」効果が一般市民のインドへの渡航熱を刺激し、円高要素も加わり、1988年度の実績は最終的には4万人を越えるものと期待される。そのうえ、エア・インディアも、インド観光シーズンに合わせ、1988年11月から成田・デリー間のノン・ストップ便を増便し、年末の12月28日には、福岡から日本で初めてのデリー行き包括旅行チャーター便を運航するなどインドへの渡航者増

大に協力させていただいている。

従来、日本ではインド旅行と言えば、お釈迦さまの足跡を旅する「仏跡巡拝」が主流であった。エア・インディア大阪支店の資料をもとに1984年～1987年の各年における、西日本地区からの日本人旅行者の目的を「仏跡巡拝」と「一般観光」に大別して対比すれば下記の様になり、年を追う毎に「一般観光」の占める比率が「仏跡巡拝」のそれを上回っていく現象が見られ、1986年からはこれが全体の約70%を占めるまでに至っている。

	1984年	1985年	1986年	1987年
仏跡巡拝	53.6%	42.2%	29.7%	30.2%
一般観光	46.4%	57.4%	70.3%	69.8%

「一般観光」の増加の要因を成しているのが、20歳代渡航者、特にこれまで稀であった20歳代の女性（学生、OL等）の目覚ましい台頭である。これはこの層へのインド政府観光局の積極的なアプローチとも深い関係があると思われる。1987年にインド政府観光局の提唱で、エア・インディアならびに旅行代理店は、インド最北部、ヒマラヤ西端に位置する高級リゾート地カシミールを若い女性そしてハネムーン旅行者対象にプロモートし、対前年比15%増の記録を見た（なお、ここはスキー場としても世界の若者に隠れた穴場として人気を博しつつある）。従来インド観光と言えば、「ゴールデン・トライアングル」として有名な、デリー、アグラ、ジャイプールを中心とした地域の比較的気候の涼しい時期（10～3月）に集中していたが、このプロモーションのお蔭で、いわゆるインド観光

の閑散期（4～6月）にも、1週間程度の日程で旅行する若い女性（特に20歳代）が増えてきたのはとても喜ばしい現象である。国際観光振興会の1988年上半期（1～6月）の資料でも、この時期にインドを訪れた女性総数4,394人の内、約31.7%にあたる1,392人が20歳代の女性であった。

今後の展開としては、まず渡航者「10万人」達成を目標に、学生および独身OLを中心とした若い女性層の開拓、従来の1週間以上を費やすインド旅行とは異なり、誰もが2～3日の休暇と週末の休日を利用して手軽に行ける2泊4日または3泊5日のデリー、アグラ（タジ・マハール）への観光旅行の促進、そして閑散期の観光客の誘致を3本柱に、1年中を通じて観光資源の豊富なインドを大いにPRしていきたい。そのためにも日印両政府には、両国間定期航空便の増便、「'88インド祭」のような全国規模のイベントの定期的開催、インド政府観光局にはマスコミ機関を通ずるより一層のインドPR、出来れば関西地区にもそのPR活動の拠点となる出張所なり事務所の早期開設を要望する。インド国内においては、ホテル・交通機関・日本語ガイド等、受け入れに関する諸態勢が更に充実され、日本人旅行者の不安を少しでも取り払うことも大切だと思われる。エア・インディアも、インドを代表するナショナル・フラッグ・キャリアーとして「10万人」の目標達成のために、その一役を担うべく、今後とも協力を惜しまない所存である。



東洋の道

常盤勝憲

南法華寺(壺阪寺)長老

壺阪寺は紀元8世紀のはじめに創建された寺で、我が国の年代で申しますと「白鳳期」にあたります。その時代は日本の「あけばの」と申しますか、やっと都が建てられた時でもあり、大宝律令という法律も布告され、国家としての基盤が確立された時代でありました。さて、日本に仏教が伝来いたしますのが紀元6世紀であります。インドで開創された仏教が広く東アジア地方に展開された末に日本にも伝えられたわけですが、とくに我が国では、この仏教を国家創建の国是として確立したのであります。その折り聖徳太子は推古天皇の摂政として、仏教思想にもとづいて有名な十七条の憲法を発布されました。

この憲法には第一に「和を以て貴となす」と示されています。和とは平和の意であります、英語の表現のピース（Peace）と異なり、印度の表現の「シャンティ」という思想に近いものでした。他人と自分の区別のない愛情、他人の喜びを見て自分の喜びと為し、他人の悲しみをみて自分の悲しみと為す、という考え方たであります。

印度の国民とともに歩んだマハトマ・ガンジー翁を、今世紀最大の知識人のひとりであると評する人もおられますが、このガンジー翁の説かれた無抵抗主義、非暴力主義もこの考え方たに立脚すると私には思われます。

十七条憲法の中味はまた、仏教思想を基本に、中国の思想や、紀元前2世紀にアショーカ王が布告した印度の憲法に類似しています。たとえば、聖徳太子の十七条憲法の中には「民を使うに徳を以てするは古の良典なり」という言葉があります。国民に国家としての協

力を願うときは、国民の仕事や立場を考えてすることが大切だと説いているのです。そこに国民大衆のことを真剣に配慮している為政者の姿が窺えるのです。

また、アショーカ王が大衆のために道路の両側に木を植えて、酷熱の暑さから人々を守るために、木蔭の奉仕を施した政治が今日の印度に引き継がれていますが、「王は国民の下僕なり」とも言い切って政治を行なったこのアショーカ王の方法は、日本の聖徳太子の政治の理想と数々の共通点を見出すのであります。

私は印度における救ライ活動をいささかお手伝いさせて頂きましたので、今までたびたび印度を訪れました。まるとき、今日では博物館となっている、ニューデリーの故ネルー首相のかつての官邸を訪問したとき、部屋の壁に次のようなネルーさんの言葉が掲げられているのを拝見いたしました。

'They call me the Prime Minister of India, but it would be more appropriate if I were called the first servant of India.'

---Jawaharlal Nehru---

(ひとは私をインドの首相と呼ぶが、むしろ印度の筆頭召使いと呼ばれるほうが、よりふさわしいであろう。)

ジャワハルラル・ネルー)

このような思想がはたして今日の印度において健在であるかどうか幾分疑わしいように思えますが、このような考え方たこそ東洋思想の本質を目指しているのではないかと思う

のであります。

ところで、人間の問題について久しく研鑽を積み重ねてきたのがこの東洋の思想であり、なかでも印度の佛教哲学や中国の哲学がそうでありました。

佛教は、釈迦が自ら体験し、味わった人間社会の真実を基礎に、いろいろな人達のいろいろな質問に答えるかたちで説かれてきました。それは単なる空理・空論ではありません。これを東洋人は「知恵」と呼んだのであります。そして古代中国の学者たちも印度哲学に学び、佛教が説くところの人間の経験や体験の重要性を理解していました。このように、佛教は釈迦の体験を基にした人間の哲学であり、「仏」という理想像をめざして生きる人間の道を明示したものです。それ故、「見仏聞法」と申すわけですが、それは、すばらしい、最高の人との出会い、そしてその人の心からの教えをきき、それを守って生きていく生活態度なのであります。

日本に佛教が伝來したのは、正式には紀元538年のことであり、欽明天皇の朝廷に百濟の王が使臣をもって佛教・經巻を献じたのが始まりでした。而來1400年、この思想が日本人の心のなかに定着して参ったのであります。その佛教は宗教というより倫理・哲学としての佛教であり、飛躍して云うならば人間科学や人間学としての佛教であります。そして長い時代の経過のうちに次第に、この人間学が日本人の生活の土台として定着してきたわけであります。

手もとの經典のなかから思い付くままに拾いだしてみると、

『幾千万の人が住んでいても、互いに知り合うことがなければ、それは社会ではない。社会とは和合であり、これが社会や団体の生命であり、また眞の意味である。

『橋を見ては、「教えの橋」を作つて人を渡そうと願い、嘆き悲しむ人を見ては、うつり変わって常なきものを嘆く心を起こし、おいしい食物を得ては、節約を知り、欲を少なくして執着を離れようと願い、まずい食物を得ては、永く世間の欲を遠ざけようと願う。

『この様にして自ら教えを得て広く施し、敬うべき人を敬い、仕えるべき人に仕え、深い慈悲の心をもつて他人に向かわなければならない。利己的であったり、思うままにふるまうは、道を行なう人の行ではない。

現に私たちが為さねばならないいろいろな事が、この佛教の經典の中に明示されていますが、2500年たつた今日でも、人間の苦惱が古代の人々のそれと同じ器の中にあるのを知るのであります。そして、この仏の教えは今も、印度と日本、そして現代を生きる全世界の人々に問い合わせを投げ掛けているのであります。

(病床にての口述筆記による)



博物館の案内書

豊原大成

四天王寺国際佛教大学教授

ここ十数年、私はほぼ毎年のように団体を組織してインド旅行をしている。その際なるべくカルカッタから入国するように日程を組む。これは30年前に初めて訪印したときの癖が残っているためかも知れないし、それにあの街特有の雰囲気で、特に初訪者の度胆を抜いてやろうという気も幾分かはある。しかしカルカッタを訪れる最大の目的はやはりショウウリンギー通りに面して偉容を誇るインド博物館を訪問することなのだ。

周知のようにこの博物館には古い歴史（1875年創立）と共に膨大な蒐集品があるが、玄関ホールでのラームプルヴァー出土のアショーカ王柱頭、その南隣室のバールフト佛塔の大欄楯、それに続くガンダーラ室以下の諸室に展示されている各時代の佛教、ヒンズー教等の宗教彫刻の質と量には何時も圧倒されし、時間不足を嘆くのが恒である。

この博物館で有難いのは、殆んど無料同然の低料金で写真撮影が許されていることだ。しかしそのため、時間不足は一層甚だしくなり、誰も他人のことなど構っておれず、めいめい勝手に行動する次第と相成る。したがって参觀者は余程の予備知識がある少数者を除き、それぞれ要領よく重要な展示品を探し出して鑑賞し、乃至はその遺品のもつ意味を理解することは、実は甚だ困難なのである。

先日も、インド案内の経験が數十回もあり、彼地のことを可成りよく勉強してもいる旅行業者と話していたのだが、彼はインド博物館所蔵のピプラーワ出土の、例の舍利容器のことは知っていたものの、それを納めてあった石棺については全く知らなかった。

蛇足ながら、この石棺というのは、1898年1月、ネパールとの国境に近いU.P.州のピプラーワで英国人ウィリアム・C.ペッペが発掘した、巨岩をくり抜いた 130×81×65 cm の石棺で、その中に、釈尊の遺骨を納めたと解釈されている銘（但し書体はB.C. 3世紀のもので、釈尊入滅より100年ないし200年遅いと言われる）をもつ舍利容器その他が納入されていたものである。舍利容器も無論大切だが、この石棺もまた佛教史上はなはだ貴重なものたるは論を俟たない。

ところでこの石棺の所在だが、インド博物館は建物に囲まれた大きな中庭に沿って回廊がめぐらされるという、インド佛教僧院に範を取ったと思われる建築様式だが、玄関ホールを突き抜けて右へ曲った回廊の柱の蔭に、ほとんど放置されているような格好で置かれているのである。灰色の石棺は発掘当時から石蓋が数片に割れていた。従って、分解を防ぐために現在も数センチ幅の鉄製のベルトが蓋を締めつけるような形でかかっている。側に説明札も何も無い。いわば粗大ゴミと見紛う態の展示？である。だから時間に追われる旅行者のほとんどは、この一見粗大ゴミの存在にさえ気付かぬまま、博物館から去って行くわけである。

ピプラーワ石棺の場合は、まあ極端な事例かも知れない。しかし似たり寄ったりのことがインド博物館展示品のほとんどすべてに言えるのではないか。尤も、無数といつてもよい展示品の々々に詳細な解説文を貼りつけるのも良し悪しである。ここで欲しいのは、写真入りの手頃な案内書ということになる。

さて、インド博物館の案内書といえば、N. G. Majundar: *A Guide to the Sculptures in the Indian Museum* 「インド博物館彫刻案内」がある。第1部と第2部に分冊され、前者はアショーカ王柱にはじまりほぼ紀元前のもの、後者はガンダーラ室の解説で、両部あわせてA5判本文250頁、それぞれ数十葉の写真、文献目録、寸法、銘文の解説、索引まで調い、むしろ専門書の類に属する。しかし如何せん、1937年の出版で、現在は絶版の筈だし、そこに取り扱われていない各時代の展示品の方が数の上では圧倒的に多いし、前述のピプラーワ出土品に関する記述も無い。

上記書以後、1978年になり Arabina Ghosh : *Remains of Bharhut Stupa in the Indian Museum, Part 1* 「インド博物館のバールフト塔遺品」(本文81頁、文献目録、索引、写真24頁)が出版されたが、ここで取り扱われているのはバールフト塔遺品のうち装飾文様のみである。最近1~2年のこととは不祥だが、同博物館の案内書としては、上記書以外の存在は寡聞にして知らない。つまり宗教美術関係だけでも、それを網羅的に取り扱った一般参観者向けの案内書は全く刊行されたことが無いようである。

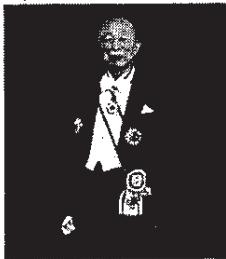
しかしインド博物館の場合はまだましと言える。デリーの国立博物館では全蒐集品に対して僅かB5版30頁のものがあるに過ぎないし、1972年1月になって前期ピプラーワ石棺よりも更に低いレベルから発見された、従ってこれこそは釈尊入滅直後のものかも知れない大小2個の舍利容器(共に無銘、うち高さ12センチの小さい方が昭和59年春、奈良

国立博物館で展示された)の前を、人々は全くそれと気付かずに通り過ぎてゆく。

すぐ南隣りに在り、スタインの収蔵品で名高い中央アジア美術館の存在も殆どの旅行者は知らない。マドラス博物館にも啓蒙書は無く、ポンベイ博物館では写真撮影も許されない。従って多くの人々にとって2度とない貴重な訪問でありながら、何を見たかという確実な記録すらも脳裏に残し得ぬまま帰途につくことになる。

インドでは佛教関係だけを考えても、旅行者が必ずといってよいほど訪問するサルナート、ボドガヤー、ナーランダー、サンチなど多数の博物館がある。しかしそれらの博物館の解説書は殆ど無いし、遺跡そのものに関する説明書は過去30年間、インド考古局の努力によって漸く20冊を超えており、博物館に関する解説は1~2を除き遺跡解説書の後に添付されているにすぎない。

さて、昭和62年度、インドを訪れた日本人の数は3万数千と言われ、欧米からはその数倍が訪印し、将来その数は飛躍的に増加すると予想されている。そしてそれらの人々の殆どすべてが少なくとも一つ以上の博物館を見学する筈なのだが、これらの人々に対し、博物館の展示品を通して、もっともっとインド佛教文化を啓蒙することが必要ではないだろうか。そのため、せめてこれら博物館の重要展示品に関する手引書だけでも早急に整備することが望まれる。そのため、例えば日本が卓越した技術を誇る写真・印刷の面だけでもお手伝いできないものか、各方面的御一考をお願いしたいものである。



[談話] 日本無罪論のパール博士に感謝する

中井一夫

弁護士、元神戸市長

1. 私は常に思うのですが、日本の社会の精神的構造の背後には仏教があります。その仏教のもとはお釈迦さんです。こう考えると、日本人はお釈迦さんとともに、その生れ故郷のインドに対して謝意を表さなければなりません。

ところで、日本は太平洋戦争を始め、敗けて泣き、列国から極東国際軍事裁判で裁かれました。ヨーロッパではニュルンベルクでドイツに対する軍事裁判が行なわれました。極東国際軍事裁判はこれに倣ったもので、国際法や条約などによるものではありません。訴追された被告は28人で、判決を受けたのは病死や入院した3人を除く25人でした。全員有罪となり、うち7人は死刑を宣告されました。

裁判の構成国は11か国で、判事はこれらの人々から1人ずつ選ばれました。そのなかに、インド出身のパール博士（ラダビノード・パール 1886～1967）がおられました。このとき、博士は67歳、カルカッタ大学の総長を辞しての就任でした。彼は大学教授・弁護士・判事を歴任した一流の法律家です。

もとより、この裁判は日本を敵とした国々の代表によって行なわれたものでありますから、各國の利害が絡みあっておりました。そのなかで、パール博士は法の真理を見失わず、公正に審理し、全員無罪の判決を下されたのであります。全員無罪の判決を下したのは、11名の判事のうち、インド代表のパール博士ただ一人であります。

2. パール判事の理論・主義・主張は、截然、広汎かつ高度のもので、同判事の判決文も英文にして1275ページ、日本語にして100万語に及ぶ膨大なものであります。同判事の裁判理論は法律だけでなく、平和の哲学に基づいて構築されています。彼は「戦争は暴力と暴力との戦いである。その暴力の戦いに勝った暴力者が敗けた暴力者を裁くとは何事か！ そのような理由がどこにあろうか？」という観点から理論を展開しています。また、法律家として「法のないところに刑罰はなく、法のないところに裁判はない」と考えます。そして、「戦争が犯罪であるという法律は、遺憾ながら、現行国際法のどこにもない。従って、本裁判の被告は全員無罪である」と結論したのです。

もちろんパール判事は、現行国際法がそのままでよいというのではありません。むしろその逆で、国際法の発展を信じ、戦争を未然に防止する国際社会=世界連邦の実現を期待していたのです。そして、「世界連邦のみが戦争を裁き得る」というのでした。

極東国際軍事裁判の判決について、パール判事自身は「私は日本の同情者として判決したのでもなく、西欧を憎んで判決したのでもない。真実を真実として認め、これに対する正しき法を適用したにすぎない」と云っています。

ともあれ同判事が、戦勝国が戦敗国を裁くという立場でなく、国際法に照らして日本は無罪であると論じられたことは、日本人として実に有り難いことで、子々孫々にいたるまで感謝の念を忘れてはなりません。

3. 昭和28年、私は衆議院の地方行政委員長として、各党派代表とともに東南アジア各国を回り、各国の議会で挨拶をしました。当時は戦後日も浅く、日本に対する悪感情が残っている国も多く、それ相応の覚悟をもってこれらの国々を訪問いたしました。その時フィリピンではキリノ大統領に同国関係の日本人戦犯の釈放を陳情しました。またインドでは、カルカッタでパール博士にお目にかかり、日本が世界中から袋だたきにあってはいる大変な時にひとり毅然として「日本無罪論」を唱えて下さったご好意に、日本国民を代表して心より御礼申し上げた次第でした。

ところで、日本無罪のパール判決は肝心の日本において意外に知られておりません。そもそも、極東国際軍事裁判の法定でも、彼の心血を注いだ判決文は公表されず、多数派の判決のみが宣告されました。また、当時の日本の新聞や雑誌もパール判決についてほんの数行しか述べていません。パール判事の見解は当時の占領政策に対する批判と受けとめられたのであります。このような事情もあって、日本でパール判事のお名前を知る人が意外に少ないので残念です。

ただ、そのなかにあって、兵庫県出身の元平凡社社長・下中彌三郎氏(1878~1961)がパール博士と親しく交わり、裁判後帰国された博士を再び日本に迎え、自らもインドに博士を訪ね、兄弟の契りを結ばれたことが注目されます。二人が共鳴したのは、ともに世界平和を念願し、世界連邦の大理想のもと、新しい世界の法治共同体を創造したいという志をもっておられたからであります。

4. パール博士は晩年も、ジュネーブにある国連司法委員会議長や世界連邦カルカッタ協会会长として、また、国際法学会の中心メンバーとして多彩な活動を続けられましたが、1967年1月、カルカッタにおいて死去されました。その翌年の昭和43年、箱根の湖畔、釈尊聖靈殿の庭にパール博士と下中彌三郎翁の遺徳を頌する記念碑が建立されました。これはパール博士に対する日本人の気持を表すものとして、まことに結構なことだと存じます。昭和50年4月、同じ釈尊聖靈殿の境内に、パール下中記念館が完成いたしました。館内には2人の胸像を中心に、極東国際軍事裁判記録の一部、パール判決書の原本、博士が裁判の際に着用した法衣、愛用の机・椅子、絞首刑に処せられた7戦犯の署名、下中翁の世界連邦建議案や世界平和アピール7人委員会の記録など、貴重な文献、遺品が展示されており、参観する者に、法の秤の平衡を保つつつ平和を希求したパール博士を偲ばせます。

ちなみに、同地は新幹線三島駅から箱根行きのバスに乗り、バス停「お堂前」で下車したところにあります。戦後、まず仏舎利を納めた釈尊聖靈殿(財団法人・箱根芦の湖国際聖道場)が出来、のち、出版平和堂(日本出版クラブ・出版平和財團)と、今ここで紹介しましたパール下中記念館(平凡社)ができたと聞いています(括弧内は管理団体)。

最後に、日印親善をはかるにあたり、日本人はパール博士の「日本無罪論」に感謝するとともに、同博士の「平和への願い」を理解することが大切であることを申し上げて、結びとしたいと思います。合掌。



日本におけるインドの発見

中 村 元

東京大学名誉教授・東方学院院長

神戸は日本の玄関口です。その日本は今、様々な問題を抱えています。たとえば東京では地価が上がり続け、どうすれば良いかを色々と考えていますが、根本的な解決策がありません。ところが神戸では、ポートアイランドという人工島を造って、もう一つの神戸を造ってしまった。このように神戸の現在のやり方は、日本の進む道を示しているのではないかと思います。

日本の玄関口である神戸には、インドの方々が大勢いらっしゃる。このようなところは日本では他にありません。だからこそ関西印文化協会が活発な活動をしておられるのです。

昔から日本人には、インドに対して抱いていた憧れがあった。日本の文化を形成するのに、仏教がその大きな背景となっています。お釈迦様がお生まれになり活動されたインドや、その近くの国々に対して、昔の日本人は憧れと尊敬の念を持っていました。そして実際にインドへ行きたいと思った人は沢山いたのです。一番有名なのは、高岳親王です。平安時代の初め、平城天皇の第3子で、出家して真如法親王と申し上げます。日本に伝えられた真言密教は奥義をつくしていない。それをただすために、唐を通じてインドへ行こうとされ、唐から雲南、そしてラオスに入って印度へ向かわれたのであります。途中で虎に喰われて亡くなつたと伝えられています。身命を賭して印度を訪ねたいと思われたのですね。

鎌倉時代には、栄西禅師という方も印度を訪ねようとして果たせなかつたお一人です。

また明惠上人も印度に対して恋慕の情を持たれていました。そして、神仏に印度へ渡るべきかどうかお伺いをたてたところ、「渡るべからず」とのお告げが出て、上人は紀州の海岸に立ち、天竺を慕つて泣かれたといいます。

ところが韓国の人々は、比較的簡単に印度へ行っていたようです。ナーランダーの仏教の大学には、2万五千人の学生がいたそうですが、その遺跡の発掘品の中に、日本と韓国でしか使わていなかった日本バサミがあったそうです。日本人は、海があったので、簡単には行けなかつたのでしょうか。だから実際に行けないならば、せめて精神的に印度に近づきたいと思っていたようです。

京都の金閣寺を鹿苑寺といいますが、鹿苑とは、お釈迦様が最初に説法されたベナレスの郊外にある園のことです。同じ京都の祇園も、印度の仏跡・祇園精舎に由来します。印度に行ったという思いを味わいたかったのでしょう。

ところで、日本人で最初に印度へ行くことが出来たのは、西本願寺の北畠道龍という人で、明治16年に仏跡巡拝をしています。当時は今と違つて大変だったでしょう。私は戦後間もなく、アメリカのカリフォルニアからローマを経由して印度仏跡を回りましたが、当時の印度人は日本人をよく知らなかつたですね。今は、印度の仏跡は日本人でもつてゐるようなものです。それだけに日本人の責任は高まつているとも言えます。

さて、それだけ日本人の印度に対する憧れには強いものがあつたわけですが、印度

の文化は我々にどのような影響を残しているのでしょうか。それは仏教を通してのインド文化の影響です。これについては誰も異論がない。ところが意外な所に影響があるのです

たとえば瓦葺きの屋根です。カワラは、インドから来た言葉と言われています。昔は、カワラをカハラと書き、「ハ」は「パ」と発音されましたから、カパラとなります。サンスクリット語でカーパーラとは、陶製の容器のことです。また、米のことをウルチ米と言いますが、ウルチも、サンスクリット語のヴリーヒから来ているとされています。米が海岸に沿って伝わると共に、ヴリーヒが、マラヤ語でプラスとなり、台湾ではバルチ、そして日本ではウルチになったと学者は推定しています。このように、日常生活に関するもので日本語に入っているものが色々あるわけですが、精神面においてもその影響は大きく、仏教はもちろんのこと、神道の神様にもインド生まれの神様が相当おられます。

インドの一番古い本、リグ・ヴェーダの中で、最も勢力がある神をインドラの神といいますが、そのインドラの神は、日本では帝釈天として挙まれ、民間信仰の中に入り込んでいます。それから、エンマ様は、インドではヤマと云い、リグ・ヴェーダでは、死者の王であり、叙事詩では死後の審判を司どると考えられています。

神戸から海を超えると、四国の金毘羅さんがありますが、コンピラはクンブヒーラという音を漢字に移したもので、真言密教を通じて日本に入り、そして神道の信仰の中にも入ったものなのです。クンブヒーラとは、元は

ガンジス河の神秘的な力を持ったワニのことです、奈良の新薬師寺の宮比羅大将も、クンブヒーラから来ています。

仏教を離れて一般の人々の道徳観念にも、インドの影響がみられます。ひとつの例をあげますと、平安時代には、法廷の判決によった死刑は一度も行われていません。仏教が人々の心を和やかにしてくれたのですね。このように、古代・近代の日本人がインドから大きな恩恵を受けていたということも忘れてはなりません。

明治・大正・昭和を通して、日本文化の優れた点を海外に伝えた人は少ないですが、岡倉天心はその一人です。優れた日本美術を世界に紹介した岡倉天心は、インドの方から援助を受けています。彼が「東洋の理想」という本をロンドンの出版社から英文で出せたのは、シスター・ニヴェーディタというインド女性の序文があったからなのです。岡倉天心が、世界に認められるようになったきっかけは、この本の出版のおかげでした。そのような事実が、案外日本人に知られていないことは考える必要がありますね。

インドの人々は、東西の精神文化の交流に大きな役割を果たしています。我々は、少々ドルが溜まったからと言って、思い上がってはいけません。ことに大国であるインドの人の精神的な声に耳を傾けて、新しい文明を創ることが、われわれの大きな任務ではないでしょうか。そう思いますと、神戸にいらっしゃる方々は、まさに、そのパイオニアとなるべき資格を持っていらっしゃる。皆様が、それを創ってくださることを期待しています。



農村寸描

二木 敏 篤

神戸市立工業高等専門学校教授

ヒンドゥー教の聖地ワーラーナシーの市街地から北西に空港へ通ずる街道を南に少し入ったところに戸数167戸、人口約1500人のC村がある。自動車が利用できるのは村の入口まで、後は狭い畦道が各集落を結んでいる。この道は雨季には泥濘と化し、歩行に難渋する悪路となる。

村の入口からマンゴー林を抜けるとクルミ（農業）カーストの居住する10戸ほどの集落がある。そこから南に数十メートル隔ててこれもクルミの17戸の集落が塊状に立ち並ぶ。更に南に少し離れたところに、各43戸の村最大の2集落がある。その一つは7カーストからなる複合集落で、そのうち1戸は指定カースト（前不可触民）のパーシィ（雑役）カーストである。いま一つはすべてが指定カーストで動物の死体を処理し皮革加工に従事する最下層のチャマールが居住する。ここから西部の集落群までの600メートルほどの間は水田、畑、果樹園が拡がっている。畑は甘蔗や小豆、胡瓜などの野菜が栽培されているが、主作物はなすびで、これは都市近郊の立地条件を生かしてワーラーナシーで販売されるばかりか、カルカッタなどにも出荷されている。この普及は酪農振興とともに村人の暮らしづくりを向上させている。果樹はマンゴーやパパイヤが多い。

西部地区は数十メートルおきに5つの集落が並び、いずれも7戸から15戸までの小集落で、クルミのほか、アーヒル（農牧）、村の先住者で非アーリア系のソイリ、それに指定カーストのムサハル。各々單一カースト集落である。そのうちアーヒルとムサハルは牛

・水牛を飼養する牧畜民で、ワーラーナシーに生乳を出荷している。西境一帯は草地・荒地が多く、ここが放牧地に利用されている。南にヴァルナ川が東流し、その北岸は雨季には滯水地となるため集落がなく、ここにも家畜が放牧される。日中はこのなかの榆の木蔭に家畜が強い日差しを避けて集まり、村人も幹の周りで昼寝をする光景がみられる。川岸を離れて東に向かうと2つの集落がある。クルミとガレリアカースト11戸からなるものと、池に面した37戸の集落である。後者は5カーストによる複合集落で、かなり大きな家屋が目立つのは、ここがバラモン（祭官）、ビセン、カヤスター（書記）の上層カーストが多いためである。この最奥部には村の指導者でビセンに属するシン氏の住宅がある。

さて、ここでこの村のカーストを概観しておこう。13のカーストからなりインド農村では平均的な構成である。上層カーストはバラモン、ラージプート、これはビセンとカウシーカに分かれている。このほかにカヤスターが含まれる。中層カーストはアーヒル、クルミ、ソイリなど農牧カーストとローハル（鍛冶）、クムハル（陶工）の職人カーストである。下層カーストはゴーノル、そして最下層として指定カーストにパーシィ、ムサハル、チャマールがある。このカースト序列は、伝承・食習慣・職業などの浄・不浄観に基づき浄性の高いほど上位とされてきた。またこの序列はある程度まで経済力とも比例する。下層カーストの穢れは直接あるいは間接（見る、聞く、接近する）の接触で伝染する。とくに指定カーストとの接触を忌み嫌う。そこでイ

ンド農村の集落構造は、カーストによる住み分け、一般に上層カーストが村の中心部で高燥な立地条件の土地に煉瓦あるいはコンクリート造りの立派な住宅を構え、これを取り囲むように各カースト毎の居住区がかなり明瞭に層状に分布する。外延部には指定カーストの粗末な草葺きの小屋が多くなっている。ここで気をつけたいのは、農村付近を通るときに主として目立つのがこの指定カーストの居住区であり、これをみて農村の貧しさを強調するという過ちをしかねないことである。なお、近年には指定カーストの住宅改善が州政府基金などで実施され、各地で大きくはないが小ぎっぱりした住宅が建設されるなどの対策が進んでいる。

このカーストによる住み分けをより合理化したのがC村の集落構造で、カースト毎に集落が分離する。12集落のうち單一カーストが8、他の2つは主カーストに他のカーストの家族が僅かに含まれる準單一カーストで、事実上の複合カースト集落は2つにすぎない。

さて先述のシン氏の住宅は広い前庭の一角に3つの建物が立ち、村最大の規模をもっている。母屋は中庭を取り囲むロの字型の建物で、各部屋は中庭に面して並んでいる。外側的一面と中庭の周りにはベランダがつくられ、その一隅に戸口があり唯一の出入口となっている。中庭には木が植えられ、そのほとりに家神を祀る祠がおかれ、朝夕は供物を供えて敬虔な祈りが捧げられる。中庭に掘られた井戸を中心に炊事、洗濯などの家事が女性の手でなされている。結婚式の行なわれるのもこの場である。このように中庭は家庭生活の中

心であり、一家団欒の場、そして財産を守り厳しい気候から家族を守る役割をももっている。中庭には今一つ重要な機能がある。インド上層家庭にみられるパルダ制である。パルダとはイスラム教徒にもみられる女性隔離の深窓制度で、めったに女性は外出しないので、この中庭のもつ意味はきわめて大きい。私が訪れた際も女性は全く姿をみせず、食事などのサービスもすべて男性の手でなされ、今もこの制度は厳しく守られている。当然ながら、中・下層カーストの女性は戸外で働く必要もありパルダ制はみられない。中庭をもつ30戸のうち半数以上が上層カーストで、彼らの6割強が中庭をもつものこれらと関連する。その中庭のある家族のほとんどが男・女の部屋を分離させている。シン氏宅の場合、母屋内に女性部屋を、男性部屋は別棟になっており、その構造は家長部屋の他は間仕切りのない細長い間取りで、そこにいくつかの簡易ベッドが並んでいる。外側にはベランダがあり、ここでも食事をとり休息するほか、寝苦しい夜はベッドをそこにおいて寝室代わりとなっている。

なお、シン氏の家族は45名。インド社会の特質の一つであった合同家族制度が今も残されている。合同家族とは3世代以上または傍系の成員が一つの家に住み、共同のカマドで料理したものを食べ財産を共有し、共通の祭祀に参加する家族を指している。近年、かなり崩れきっているが農村では土地、財産の分割を避けたいといった面から今も残されているが、シン氏の家族の場合はこの典型例と言えるのではあるまいか。



代 「ラーマーヤナ」の現状的意義 —インドの人気TV番組に寄せて—

溝上富夫

大阪外国语大学助教授

「ラーマーヤナ」が「マハーバーラタ」と並ぶ古典サンスクリット文学の2大叙事詩の一つであることは今更のべる必要はあるまい。ヴァールミーキ作といわれ、7編2万4千頌の詩句からなるこの「ラーマ王行伝」は、近代インド諸語に「ラーマ文学」を生み出すなどインド民衆の精神生活に大きな影響を及ぼしただけでなく、その物語は東南アジア諸国にも伝わっている。

1987年1月から1988年の7月まで、インドのテレビ（国営）で毎日曜日の朝40分間のドラマとして78回連続放映された「ラーマーヤナ」（ヒンディー語による）は、大ヒットし、インド国民を茶の間に釘づけにした。このような長期にわたる連続ドラマ 자체がインドのテレビでは初めてのことであり、しかも多言語国家インドで一つの言語（ヒンディー語）の番組をインド国民が全国で同時にいっせいに見ていたというのも画期的なことであった。この「ラーマーヤナ」の人気ぶりを伝えるエピソードには事欠かなかった。たとえば、列車の運転士も乗客も駅員もこの番組に夢中になってそれが終るまで列車が発車しなかったこと、1万リットルの原油を積んだトラックが橋の上から下のスラムに落下したが、スラムの住民はこの「ラーマーヤナ」を見に行っていたおかげで無事だったこと、「ラーマーヤナごっこ」と称して子供たちが往来で弓矢をもっていくさの真似事に興じ（「ラーマーヤナ」には、魔王ラーヴァナとラーマとの戦闘場面がある）失明する者もでるなどケガ人が続出したこと（警察は国民の宗教的感情を考慮して、取り締まりには及び腰

であったことも指摘されている）、インドでは停電が多いが、ジャンムーではこの番組中に停電したことに腹を立てた民衆が発電所を焼き打ちにしたこと、この番組をみていたため結婚式場への花嫁の到着が遅れたこと、等々。

本来、ヒンドゥー教にまつわるこの物語をイスラム教徒もキリスト教徒も熱心に見たという。當時この番組を見た人は全国で4千万人という調査がある。私も南インドのある町で、最終の3回分（魔王ラーヴァナがラーマに殺され、ラーマが妻のシーターを奪い返して故国アヨッディヤーにもどる）を見たが、この間町を歩いている人はほとんどなく、最近の都市部でのテレビの普及率からすると、1億人は見たと思われる。なぜ、2千年前の古典がこれほどの人気を博するのだろうか。

私はこの「ラーマーヤナ」シリーズの製作者兼監督のラーマーナンド・サーガル氏にボンベイの私邸で会った。「ラーマーヤナのものつ道德的価値を民衆に伝えるのが、私の製作意図だった」と氏は語り、私に膨大な手書きのシナリオを見てくれた。このシナリオは、ヴァールミーキ作のオリジナル（サンスクリット語）のほか、主にヒンディー語のトルシーダース作「ラーム・チャリト・マーナス」（ラーマの行ないの湖）に準拠し、その他必要に応じて、ベンガル語、マラーティー語、タミル語、テルグ語等の各言語に翻案された「ラーマーヤナ」を参照しながら書いたという。

しかし、爆発的な人気の一方で、古典文学の専門家の一部からは、「ラーマーヤナ」中

のいくつかのエピソードの信ぴょう性やセリフの妥当性に対して疑義がはさまれたのも事実である。また、番組の最後に、トゥルシーダースの像は映したのにヴァールミーキの像を映さなかったのは怪しからんと全国清掃労働者組合から告訴されたりもした。インドの清掃労働者は指定カーストに属する人達であり、指定カーストに属する人達はヴァールミーキを自分たちの祖先と見なしているからである。

ヴァールミーキの「ラーマーヤナ」とトゥルシーダースの「ラーム・チャリト・マーナス」の最大の違いは、前者がラーマを完全無欠な人物・理想的な君主・夫として描いていふのに対して、後者はラーマをヴィシュヌ神の化身とみなして神格化している点である。両方を参照した結果、ラーマの描き方が人間であったり神であったり、あいまいになっている点は否めないが、インドの民衆はそのことに矛盾は感じていないようだ。多くの人々は人間が昇華して神になったととらえ、素朴に信仰の対象としてみているようだ。信仰に厚い人は、沐浴してからテレビの前に座ったという。その姿は、映画「ガンジー」をみて合掌していた民衆を思い出させる。シーター王妃の夫ラーマへの献身ぶりには、2千年前の女性像へ引き戻すものだと、ウーマンリブから反発がなくはなかった。また、苦難に面して泣くばかりの弱々しい女性としてしか描かれていないという非難もあった。しかし、苦難を一人で黙々と耐えたその勇気を讃える声も、もちろんある。ヴァールミーキのラーマの人格についてよく非難されるのは、長年

ラーヴァナに捕らえられていたシーターの身の潔白を疑い、身の清浄を証するため火中にに入るよう命じたことである。これも今日のウーマンリブからみると、男性の潔白は疑われないので、大変な女性差別ということになる。第一、理想的な夫であるならば、妻の貞操を疑うこと自体がおかしい。実際、弟のラクシュマナは、ここで烈しく兄を非難する。しかし、サーガル氏は、ここは巧みにトゥルシーダースのマーヤー・シャクティ（幻影の力）という解釈を援用して視聴者の疑問に答えた。つまり、ラーマは、シーターがラーヴァナにさらわれる以前に、真のシーターをアグニ神（火の神）の庇護のもとに預け、シーターのマーヤー（幻影）を森に連れて行った。ラーヴァナがさらって行ったのはシーターの幻影だったというわけである。マーヤーなるシーターが火中にいると、アグニ神と共に眞のシーターが現れるというわけである。要するに、ラーマは理想の夫・兄、シーターは理想の妻、ラクシュマナは兄思いの弟、猿の英雄ハヌマーンは忠義な下僕であり、各々が理想的人物として描かれており、インドの民衆はブラウン管のなかに、兄弟愛とか夫婦愛とか師弟愛とかについてかくありたいという自らの理想像が実現されていることに、束の間であっても酔ったのであるまい。それは、インドの大衆映画の勧善懲悪とも通じる。

なお、有難いことに、我々国外にいる者はこの「ラーマーヤナ」シリーズを市販のビデオで楽しめる。将来、日本語字幕つきのものを日本の茶の間でも見られるようになれば素晴らしいと思う。



タゴールのアメリカ訪問 — 1916年の場合 —

森 本 達 雄
名城大学教授

詩人タゴールが1913年のノーベル文学賞の受賞と、翌年ヨーロッパで勃発した第一次世界大戦という人類の大惨事を契機として、いよいよ「世界市民」としての自覚と使命感をつよめ、その晩年の20年余を東西文化の相互理解と世界平和の実現に向かって、文字どおり老軀に鞭うち、東奔西走したことは周知のとおりである。タゴールのこの世界巡礼は、大戦だけなわの1916年に、日本とアメリカ訪問を振り出しに始められた。それは、ヨーロッパが兄弟殺戮の血祭り騒ぎに熱狂するときに、世界の独立国民のなかで、彼の人類愛のメッセージに耳を傾け、平和への努力に力を貸してくれるのは、いまなお「冷静さと正気を失っていない」日本人とアメリカ人をおいてはないと、すくなくとも来日するまで詩人はそう確信していたからであった。

しかし、神戸上陸後、タゴールがそこに見たのは、「富国強兵」を合言葉に、ひたすら軍事的帝国主義の道を邁進し、西洋文明の模倣に懸命な悲しむべき日本の現実であった。タゴールは早速、各所での公開講演で、そうした日本の「国家主義」を痛烈に指弾し、独善的な商業主義の将来に警鐘を鳴らしたが、そのような批判や苦言に、愛国熱にうかされた当時の日本国民が謙虚に耳を傾けるはずはなかった。そればかりかかえって、タゴールは「亡國に咲いた美しいあだ花」と揶揄されつつ、3か月後に、悄然と次の目的地アメリカへと旅立たなければならなかった。こうしてタゴールの日本における「初転法輪」はみごとに空振りに終わったが、それでは、次の訪問地アメリカではどうであったか。一口で

いえば、時あたかも世界的に戦時下のナショナリズムの高揚期であり、ここでも五十歩百歩、概して日本の場合と大差はなかった。

まずタゴールがシアトルに到着する前に、「リタレリー・ダイジェスト」誌はいちはやく次のように予防線を張った——「彼はまもなく、たぶん日本でもやったように、われわれの文明を非難すべく、西洋のこの岸にやってくることになっている」と。そして実際に、タゴールが各地でくりかえしおこなった「ナショナリズム崇拜」と題する講演で、ナショナリズムを悪魔崇拜として弾劾したとき、アメリカの言論界にごうごうたる反論の声がわきおこった。たとえば「デトロイト・ジャーナル」紙は、善良なアメリカ国民に向かって警告した——「偉大なるわがアメリカ合衆国の若者の心を堕落させようとしてタゴールがまきちらしている、あのような不健全な甘ったるい精神の毒薬」に心せよ、と。

また、「〔講演旅行の目的〕本音は、インドで始めた子供たちの学校をつづける基金集めです」と公言してはばかりぬタゴールが、施主(セシュ)の文明批判をすることに業(ゴウ)を煮した「ミネアポリス・トリビューン」紙のコラムニストは、タゴールを称して一回700ドルでアメリカ人を叱りとばす「インドからやってきた最も割りのよい商人」と皮肉った。そして、タゴールから自然教育の理想と、シャンティニケタンでのその実験について聞いた何人かの新聞記者たちは、詩人の学園を非行青少年のための感化院と早合点して報道するという一幕もあった。

イギリス政府は、タゴールの平和への発言

はイギリスや連合国の戦争努力からアメリカ人の同情を切り離そうとするドイツの宣伝の手先に利用されるだけではないかとの疑念を深めていた。おりしも、タゴールの戯曲「チットラ」がベルリンで上演されたというニュースがヨーロッパから伝えられると、「ニューヨーク・サン」紙は、このような見せかけをもって「ドイツ人は、大英帝国の支配に対するインド人の反対分子たちの不満を拡大することを狙っているのだ」と、まことしやかに書き立てた。

いっぽう、アメリカ在住のインド人たち、とりわけ「反乱（ガタル）党」として知られる革命組織に属する血気盛んな若者たちは、タゴールのナショナリズム批判を自国の民族運動への裏切り行為とみなし、前年イギリス政府からノーベル賞の受賞を記念して「ナイト」に叙爵されたことをもって、「このインド人ナイトは祖国の名誉を傷つけるために合衆国に送りこまれたイギリス政府の犬」だときめつけ、ついにサンフランシスコでは、詩人の投宿していたホテル前で、タゴール支持者たちと乱闘事件までひきおこした。そのため詩人は、心ならずも護衛の警官に付き添われて旅をつづけなければならなかった。

それでも、ジャーナリズムの冷たい批判の声をよそに、各地の講演会場はほとんどどこも満員の盛況であった。そこはたしかに、「アウトロック」誌の言うように、「真理への熱心な願望と同時に好奇心」が大きくはたらいたこととは否めないが、「聴衆は尊敬の念をもって彼の声に耳を傾けた。そして、たとえ彼らが彼の教義に改宗することはなくとも

も、彼の人格に深く魅せられた」というのも事実であった。ことに、論文集『パーソナリティ』（1917年）に収められている思想・芸術・教育問題をテーマとした講演は、宗教や教育関係者、婦人層から歓迎された。しかし、これとても「デトロイト・ジャーナル」に言わせれば、「抽象理論としては、彼のメッセージは大いに魅力のある興味深いものであるが、現実にそれを適用する示唆としては、明らかに、人類には向き」ということになる。これは、いつの世にも理想を破綻させる現実主義という名の恐るべき方便であることは言うまでもない。

こうして、人類の未来を憂える詩人の真意は理解されず、両陣営からのあらぬ中傷と誹謗にいたく心を傷つけられ、さらにアメリカ生活のあわただしいテンポに肉体のリズムまで狂わされて、タゴールは激しい郷愁の念にかられ、「実質的な金銭的損失」を考えるゆとりすらなく、講演旅行の契約を半ばで切り上げて、1917年1月に日本経由で帰国した。帰国後、日本・アメリカでの講演集『ナショナリズム』を出版するにあたり、ウィルソン大統領に献げたいとの意向を出版社を通じてホワイト・ハウスに伝えたところ、大統領側近は、丁重にその好意を辞退した。理由は、ステファン・ヘイ教授によると、タゴールはアメリカ滞在中に反英革命家グループとかかわりをもっていたらしいとの疑惑がいだかれていたため、イギリス大使が強硬に反対したからであったという。いずれにせよ、この事件は、タゴールのアメリカ旅行の総括を象徴するものといえよう。



インド思想の日本の受容の問題 —巨視的座標に関する—

山 口 恵 照

大阪大学名誉教授・東方学院講師

標記のテーマは、云うまでもなく二つの部分をもって構成されるが、ここでは、まず、西洋思想の日本の受容について考えて見たい。これは、いささか唐突の感を与えるかも知れないが、日本にとっては、インド思想も海外から渡來した思想、つまり外来思想の一環であり、その日本の受容という問題は少なからず西洋思想の日本の受容に連関するからである。

西洋思想とは何か？これは一言で要約することはむずかしいが、日本の近代史から考えたいと思う。鎖国から開国に踏み出した明治以後、約120年にわたる日本の近代史は、総じて西洋の文化の受容による近代的発展の歴史であった。それは西洋諸国の近代的発展の流れに沿い、流れに従つたものであったが、その中には、さまざまな摩擦や大きな屈折があった。さまざまな摩擦はともかく、大きな屈折があったことは留意しておかなければならない。

大きな屈折とは、昭和20年（1945年）に迎えた「敗戦」である。敗戦は云うまでもなく、戦争に敗れ債務を負うことであるが、今日から見ると、日本の近代的発展の一転機であった。これは、明治以後、西洋諸国が目ざし日本も追随した「富國・強國（強兵）」の夢から醒まされた、否応なしの事態であったことは間違いないが、強国のイメージを伴わぬ平和な富國への転機となったことは注目に値する。このことは、巨額の債務を背負つて余儀なくされた戦後の困難が次第に克服され、「経済成長」が定着して、日本が債務国から債権国に転じたことからして明瞭である。

敗戦後40余年を経た今日、日本はまさしく「債権国・富國」である。その全容の説明は容易ではないが、「富國」が明治以後、日本の追求した目標であり、日本の現状をあらわすことは明らかだから、日本は現在、富國の目標を達成したということができる。では、何がそうさせたのか？

いま述べたように、日本は明治以後、富國を一貫した目標として追求して來たが、この目標は明治の当初、諸般の事情により「強國」の目標と結びついて、以後80年を経過し、敗戦によって大きな修正を余儀なくされた。戦後の「平和国家」「文化国家」の旗印はこの点を示しているだろう。私は右の修正が、強國のイメージを伴わぬ、平和な文化を尊ぶ富國を意味した点に注目したい。戦後の日本は明治以来の富國の目標を強國の目標から切りはなして、平和な文化を中軸として追求することにしたのだ。これは今日のところ、それなりの成果を収めたと云える。問題はなお今後にあるが、ここに成果を収めた富國日本の「主体性（アイデンティティー）」を問題としたのである。

富國日本の主体性は、戦後になって始まったのではなく、その由因を戦前にさかのぼって考察させる点、留意を要する。

ここに、「国民統合の象徴」をとり上げてよいと思う。日本においては、古来、政権の担当者（大臣）とは別に、国の統治者として、国民統合の象徴である「天皇」を認める伝統があった。「象徴」という言葉は比較的新しく、「シンボル」のことであるが、この場合、象徴を「権現（権化）」と見ると、ここ

に歴史的に広汎な含みがあらわれるようである。権現というのは、「神勅」に示されるごとき神国日本の統治者である天皇と重なり、大乗仏教における「仏陀（仏）」に連関する。とういうのは、仏はもろもろの神（八百神）を自らの眷属として日本国に遣わしたまい、あまねく衆生（万民）を利益するという、仏教の伝来以後に定着した大方の発想「本地垂迹」「神仏習合」に一致しているのである。

本地垂迹・神仏習合というのは、外来の宗教である大乗仏教と日本古来の神道とが「本地（仏）」と「垂迹（権現）」との関係において不異であり、神仏の両者は現実において習合し一体である、というもので（「敬仏」＝「敬神」），神国日本の統治者である天皇と矛盾せず、政権の担当者とは別個の統治者「天皇」の象徴的伝統を意義づけたのである（「敬神」＝「敬天」）。

このことは、日本の歴史の主要な転換期に際してうかがい得るが、明治維新の前後を顧みても明らかである。この場合、幕末の動乱・明治維新と今時の敗戦を通じて「天皇」が国民統合の象徴として發揮した意義を想うことができよう。意義とは、国の存亡の変事に際して政局（時局）を安定させる役割に関わるものだが、決して権力に属せず、権威を特徴とするのである。権力は結じて私情を交えるが、権威は私情に関わらず、無私公平にして初めて發揮される。敗戦後の動乱期における政局（時局）安定のメドは種々に考えられるが、第一には、統治者「天皇」が国民統合の象徴として果たした権威的役割を挙げるべきであって、これによって、国のトップ（

元首）の座（地位）を政権の争奪（交替）の次元において左右させることなく、国民の総意に基いて政権の担当者（首相）を選挙するという民主主義のルールが定められて行ったと考えられる。

ここに富国日本の「主体性」の特質を明らかにうかがい得ると思う。主体性の特質とは人間社会（日本社会）全体の自由平等な発展の基盤（座）として、権威（無私公平なる威光）と権力（政権争奪・担当の強制力）とを区分して確保するものであって、これは、インド思想の大乗仏教に由来する権現の発想をもって長いあいだ培われ、今日にいたる日本の主体性の特質——「日本教」ともいるべき——を形成し来たったと考えられる。

近世以降、日本は西洋に接し西洋の思想・文化に学ぶところが少なくなかったが、西洋の思想・文化の核心ともいるべき「西洋教」（「ギリシア教」「キリスト教」等）を今後どのように評価し損取することになるのか？これは日本の主体性に関わる誠に大きな問題である。





東インドと私

頼 富 本 宏

種智院大学教授・文博 真言宗実相寺住職

仏陀の国インドと御縁をいただいて約20年。その間、昭和51年から59年にわたって毎年インドの土を踏んでいるが、ここ2～3年は学位論文に追われて足を伸ばす時間がとれず、残念であった。でも、ようやく一息ついたので、明年は懐かしの地に行きたいと思っている。

ところで、インドの仏教遺跡、とくに私の専門である密教系の遺跡・遺品を調査していく気がついたのは、東インドのことである。インドは非常に広大な国であり、民族や言語も一様でないことは改めて言うまでもない。

ところで、かつてインドを旅した玄奘や義淨などの中国僧の記録によると、古来、五天竺という言葉があった。具体的には、中天竺をはじめとして、東天竺・南天竺・西天竺・北天竺をさす。これらの五天竺は、現在のインドの地域区分と一致しない個所も多少あるが、方位性に重点を置いた区分である。それらの中で、日本人に最も知られていない東天竺、つまり東インドについて人びとの注意を喚起したいと思う。

東インドを代表する方がオリッサ州である。このオリッサは、日本の仏教者がことのほか憧れる「仮跡」ではない。また、すばらしいヒンドゥー教の寺院や美術に恵まれているにもかかわらず、西インドのアジャンタやエローラの石窟のような知名度はない。したがって、残念ながら、オリッサのことを知っている日本人は、インド通の人でもさほど多くない。けれども、オリッサの過去と現在は非常に興味深い内容を持っているので、あえてここで紹介することにしたい。

過去のオリッサについて、最初に思い浮かぶのは、紀元前3世紀に現われたアショーカ王のカリンガ征服である。カリンガ国は、オリッサを中心とするベンガル湾を統治する大国であった。インド統一を志したアショーカ王は、大軍をもってこれを攻め、15万人以上を捕虜とし、双方とも無数の死傷者を出した。その結果、王は戦争の悲惨さを知り、武力による征服から法による征服へとその政策を転換することになるのである。

アショーカ王は、仏教に帰依した後、インド各地に仏法を鼓吹する石柱や磨崖碑を多数建立したが、現在のオリッサでは、州都バネシュワルの南方11キロのダウリとガンジヤム地方のジャウガダにそれが残っている。

このうち、ダウリには、現在日本山妙法寺によって白亜の日本寺大塔が建立されているが、その山裾に石造りの像と「すべての人民はわが子なり」という趣旨の刻文が残されている。

その後、7世紀の中葉有名な玄奘三蔵がオリッサを通過した時には、この地方は「烏茶（ウダ）国」呼ばれていた。そして、その時には、ラトナギリ僧院がすでにこの仏教国の中心として栄えていたようである。

オリッサ州の旧都カタックの北東方約60キロにあるラトナギリ仏教寺院跡は、今から約30年前までは土砂に埋没していた。そして、D.ミトラ女史（元インド考古局長官）の指導による発掘の結果、2つの僧院と大塔、および数個の祠堂跡が確認された。

発掘品の中には、密教のふるさとインドで初めて発見された胎藏界大日如来像、金剛界

立体マンダラなど非常に貴重なものが多く、まさに仏教美術、とくに密教美術の宝庫である。私もすでに三度現地調査し、今年7月から9月まで放映したN. H. K. 市民大学講座『密教とマンダラ』の中でその模様を報告しておいた。

次に、現在のオリッサを紹介しておくと、州の面積は約15万5千平方キロメートル。言語はオリヤ語を用いる。州都は、ヒンドゥー教の聖地バネシュワルで、市内には有名なリンガラージャ寺院、ムクテーシュヴァラ寺院など古寺が多い。

産業は、オリッサという言葉の語源が「米」を示すように、インドでも有数の米作地帯である。とくにラトナギリあたりの水田地帯を見ていると、日本のどこかの田舎にいるような錯覚をおこしてしまう。統計によると、人口の80%は農業に従事している。海岸国であるため、水産業もさかんで、遠浅の海岸は、日本なら海水浴客で混雑することであろう。

鉱業では、まず鉄をあげねばなるまい。インドの年間産出量の3分の1を占め、隣りのビハールの石炭とともに製鉄コンビナートを形成している。

宗教は、人口の97%がヒンドゥー教徒で、イスラム教の影響は少ない。

観光の名所としては、現在の州都バネシュワルと、近接するプーリのジャガナート寺院とコナラクのスーリヤ寺院がある。

バネシュワルは、人口約20万。市内には9世紀から13世紀に造られた100を超える寺院が残る宗教都市で、ウトカラ大学など学校の数も多い。最も有名な寺院は、シヴ

ア神を祀るリンガラージャ寺院で、精巧な女人像をほどこした砲弾形のシカラ（高塔）を持ついわゆる北インド型の寺院建築である。

プーリは、バネシュワル南方約60キロの海岸にあるヒンドゥー教の聖地である。12世紀の建立と伝えられるジャガナート寺院には、全国から多数の巡礼者が訪れる。シカラを持つ構造は、リンガラージャ寺院と同軌であり、異教徒は中に入れない。

6月に行なわれるジャガナート（ヴィシュヌ）神の大祭には、直径2メートルの車輪が16個ついた巨大な山車が3台、町中を練り歩く。ちょうど京都の祇園祭の山車の巡回を行ひとさせる。現に、山車の起源がインドにあることを勘案すると、決して無関係ではないだろう。

コナラクは、プーリに隣接するが、ここは太陽神スーリヤを祀るスーリヤ寺院で有名である。とくに人びとに強烈な印象を与えるのは、巨大な石造りの大車輪の軸部に刻まれたミトナ（男女）像であり、愛の生命を謳歌するインド美術の極致といえる。

何やらオリッサの観光ガイドになってしまったが、ラトナギリ寺院に代表される仏教美術、バネシュワルなどのヒンドゥー寺院、そして何よりも魚や米のおいしい所である。人情も温かく、人なつっこい。

もっともっと日本人に知ってもらいたいインドである。

関西日印文化協会 役員名簿

名譽顧問	相談役	理事
駐日インド大使 A. G. アスラニ	日本赤十字社常任理事 茨木 基則	旭化学工業社長 嶋崎 義詮
神戸インド総領事 D. V. モハン	会長	種智院大学教授 山崎 泰広
元外務大臣、衆議院議員 櫻内 義雄	神戸ユネスコ協会会長 日本バラ文化協会会長 桑原 泰業	種智院大学教授 頬富 本宏
元外務次官、駐印大使 国策研究会会长 法眼 晋作	理事	京都新聞社社友 笹井 慈朗
大阪府知事 岸 昌	作家、大阪成蹊女子 短大名誉教授 石上 玄一郎	関西大学教授 網干 善教
兵庫県知事 貝原 俊民	印度古典舞踊研究所主宰 ヴァサンタマラ	南法華寺(壇阪寺)住職 高橋 样元
奈良県知事 上田 繁潔	姫路友交クラブ専務理事 上野 公嗣	宮城学院女子大学教授 山形 孝夫
神戸市長 宮崎 辰雄	岡之山美術館館長 岡沢 薫郎	監事
神戸商工会議所会頭 石野 信一	相愛女子大学教授 大谷 紀美子	松岡 煎税理士事務所長 税理士 松岡 薫
顧問	洋画家・甲南女子大学教授 角 卓	税理士 松岡 靖惟
京都大学名誉教授 神戸市立中央病院長 岡本 道雄	日本ネパール文化友好 協会専務理事 倉内 司郎	評議員
兵庫県近代美術館館長 元参議院議員 金井 元彦	松蔭女子学院大学学長 黒沢 一晃	淨福寺住職 浅野 正運
京都大学名誉教授 日本学士院会員 平沢 興	神戸市婦人団体協議会会长 土井 芳子	神戸商科大学名誉教授 神戸女子大学名誉教授 井上 善右衛門
京都大学名誉教授 日本学士院会員 長尾 雅人	ポートピアホテル社長 中内 力	神戸市仏教連合会顧問 井上 紀生
東京大学名誉教授 東方学院院長 中村 元	神戸市立工業専門学校教授 二木 敏篤	インド舞踊家 小澤 陽子
兵庫県文化協会会长 坂井 時忠	国際ヨガ協会会长 松島 茂雄	四宮神社宮司 大山 裕史
弁護士、元神戸市長 中井 一夫	大阪外国语大学助教授 溝上 富夫	妙法寺住職 加門 得勇
大阪国際交流センター理事長 関西電力副会長 小林 庄一郎	名城大学教授 森本 達雄	神戸女子薬科大学名誉学長 金子 太郎
京都大学教授 矢野暢	望月書道芸術院院長 望月 美佐	梯奥野工務店社長 河西 喜代春
	神戸デザインアーズ協会副理事長 山田 芳信	法華クラブ副社長 小島 澄三
	大阪大学名誉教授 山口 恵照	北野天満宮宮司 佐藤 直邦

評議員

熊内八幡宮宮司
杉 村 伸

追手門学院大教授
村 主 恵 快

神戸大学名誉教授
神戸女子大学副学長
高 橋 省 巳

シンエー・フーズ㈱会長
田 中 教 仁

宮城学院女子大学助教授
富 永 智津子

土井弘子ヨガ美容スクール
理事長
土 井 弘 子

阿弥陀寺住職
土 佐 舜 成

四天王寺国際仏教大学教授
西福寺副住職
豊 原 大 成

永井流家元
永 井 登志春

㈱神戸ヒラコ地所社長
比 良 竜 虎

播州成田山(法輪寺)主管
笠 倉 明 德

佳生流家元
西 村 雲 華

俳人
秦 志 郎

地唄舞師範
松 本 尚 蒔

アショカ・ツアーハーベス
水 野 梅 秀

仏足跡研究所主宰
森 貞 雄

聖徳太子会理事長
森 修 爾

甲南大学教授
柳 田 侃

インド舞踊家
ヤクシニイ・矢沢

甲南大学教授
山 根 芳 知

団体役員
山 本 吉 正

横山整骨院院長
横 山 修

禅昌寺住職
横 山 正 賢

The Indian Community in Kansai
The Indian Chamber of Commerce, Japan
The Indian Social Society
The India Club

List of Life Member

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. Mr.P.D.Choksi | 5. Mr.K.P.Surtani |
| 2. Mr.L.D.Jhaveri | 6. Mr.F.C.Karani |
| 3. Mr.B.Nathurmal | 7. Mr.Dasu Bhowmik |
| 4. Mr.N.S.Wasu | 8. Mr.B.S.Sethi |

〔編集後記〕

このたび創立30周年記念行事の一環として「日印文化」記念特集号を発行することができました。原稿をいただいた諸先生方を始め、表紙の題字は岡本道雄先生に、文中カットには角卓画伯にご協力をいただき、厚くお礼を申しあげます。

なお、ネル一生誕百周年を記念して、表紙には故ネルー氏の写真を使用させていただきました。

◇ ◇ ◇ 黒沢 一晃

日印文化 創立30周年記念特集号

平成元年6月1日発行

発行所 関西日印文化協会

電話 078-591-5633

ファックス 078-593-8857

編集発行人

桑 原 泰 葉

印刷所 共栄印刷有限会社

神戸市中央区花隈町22番6号

電話 078-341-0316

国際親善週間

神戸・インド週間 行事プログラム

主催

- 神戸市コンベンション推進本部
- (財) 神戸国際交流協会
- 関西日印文化協会
- 在本邦インド大使館

在神戸インド総領事館

- エラー・インディア
- インド政府観光局
- インディアン・コミュニティ

1984年1月25日(インド共和国記念日1/26)から1月31日までの間、つきのプログラムにてインド週間行事を開催いたします。今回の催しは、主催8団体と関係団体の後援・協賛を得て日本とインドの相互理解、相互交流を図り市民レベルの国際交流・親善を進めようとするものです。

月 日	行 事 名	時 刻・場 所	内 容
1/25 (水)	Republic Day レセプション	午後7時30分～ 10時 ・インドクラブ	①祝賀パーティ ・関係者のみ
1/26 (木)	インド舞踊の夕べ	午後6時～8時 ・神戸国際会議場 「メインホール」 (三宮駅よりポートウォーク ライナーバス「市民広場駅」 下車すぐ)	①主催者代表あいさつ ②インド舞踊 ③抽せん会 ・一般客席招待 600人 ・エアーアイントラムより航空券、航空パック 及び六甲サリー5着を抽せんで贈呈 ・協力：シャンティー＆ヴァンタライト音楽団
1/27 (金)	映画と講演 —神秘の国インドを語る—	午後2時～4時 ・神戸国際会議場 「国際会議室」	①インド紹介映画上映 ②講演 登坂寺 常盤勝彦師 ③質疑応答 ・一般客席 100人・参加費 500円
1/28 (土)	日印子供交流のつどい	午前10時30分～ 午後1時 ・インドクラブ	①昼食会 ②インド舞踊等の鑑賞 ・関係者のみ
1/29 (日)	インド文化の源流を探る 「ヨガフェスティバル」	午後2時～4時 ・勵労会館 7F 「大ホール」 (国鉄三宮駅東200m) (中央区役所西隣)	①ヨーガの真髄を披露 ・一般客席招待 400人 ・協賛：土井弘子 謙吉ヨーガ興業スクール
1/30 (月)	シンポジウム —インドを語る—	午後6時～ 7時30分 ・神戸国際会議場 「403号室」	①座談会形式でインド文化について質疑応答 ・一般客席招待 100人 ・パネリスト 堀 真澄氏 小池義人氏ほか
1/31 (火)	インド料理展 インド観光物産展	午後4時～6時 ・神戸国際会議場 「レセプションホール」	①インド料理を味わう ②観光地パネル写真展示 ③物産の展示、即売 ④抽せん会 ・一般客席 150人・参加費1,000円・飲み物は各自負担・記念品贈呈サリー5着
1/31 (火)	インド映画 名作の夕べ	午後6時～10時 ・神戸国際会議場 「メインホール」	①魔法使いのおじいさん ②ミュージカル女優 ・一般客席 600人・入場料 500円 ・後援 国際交流基金
1/26(木) 31(火)	インド写真展 「仏陀の足跡—インド—」	午前10時～ 午後8時 ・ギャラリーさんちか	①パネル写真約60点 ・写真家 丸山 男氏の作品展示 ・協賛 さんちかタウン

協賛行事：訪印文化使節団の派遣(昭和59年4月29日～5月6日)

《事業行事への申込み方法》

- 申込用ハガキに住所、氏名、職業、電話番号及び参加希望行事名(一枚に一行事)を明記
- 申込み先：

(財) 神戸国際交流協会

「インド週間」係

〒650 神戸市中央区港島中町

6-9-1

神戸国際会議場内

- 申込み締切：

昭和59年1月14日(当日消印有効)

感 謝

関西日印文化協会殿

あなたは国民の文化の祭典第3回国民文化祭(ひこうく)の開催運営に多大の貢献をされました。その功績は誠に大であります。よってここに深感謝の意を表します。

昭和63年11月3日

第3回国民文化祭実行委員会代行会長

兵庫県知事 貝原俊次

神戸国際交流賞

関西日印文化協会様

貴団体は国際交流の推進に多大な貢献をされ神戸の国際性を高めることに寄与されました。ここにその功績をたたえ神戸国際交流賞をお贈ります。

平成元年3月17日

財団法人神戸国際交流協会

会長 宮崎辰也



AMBASSADOR

भारत का प्रस्तुतालय, दोली
EMBASSY OF INDIA
TOKYO
April 28, 1988

Dear Mr. Kuwahara,

The Festival of India in Japan was inaugurated by the Prime Ministers of India and Japan at the National Theatre on April 15, 1988. The Ceremony, Concert and Reception were appreciated by many invitees. This auspicious beginning was possible in considerable measure due to your earnest interest, help and goodwill.

I convey to you our heartfelt gratitude on behalf of the Government of India, the Festival of India Directorate in New Delhi and the Embassy of India in Japan for your support.

With kind regards,

Yours sincerely,

(A. MADHAVAN)

Mr. Yasunari Kuwahara,
President,
KOBE GROUP,
Kobe.

EMBASSY OF INDIA
TOKYO
March 31, 1989



AMBASSADOR

Dear Mr. Kuwahara,

I am happy to learn from your kind invitation card that Kansai Japan-India Cultural Society will be celebrating its 30th Anniversary on 7th April, 1989. While I am unable to come due to my bus commitments, I am sending you through this letter my warm felicitations and best wishes for your continued endeavours in strengthening Japan-India cultural bonds. In any case I am sure our Consul General in Kobe will be attending the reception on 7th April, 1989.

2. I am also delighted to learn from our Consul General that the Kobe International Association has this year bestowed its International Award on the Kansai India-Japan Cultural Society in recognition of your outstanding contributions towards promotion of international exchange programmes. My heartiest congratulations on this well-deserved award.

With best regards,

Yours sincerely,

(A.G. ARZANI)

Mr. Y. Kuwahara,
President,
Kansai Japan-India Cultural Society,
7-26, 9-chome,
Suurandaihigashi-machi,
Kita-ku,
Kobe

'88 インド祭<神戸>開幕コンサート
インド古典芸能の夕べ
(INAUGURAL CONCERT)

プログラム (PROGRAMME)

18:30 開幕
Opening
18:30 ~ 18:35 挨拶
Opening Address

プブル・ジャヤカール
Smt. Pupul Jayakar
(インド祭諮問委員会委員長)
(Advisory Committee for Festival of India in Japan)

宮崎辰雄
Mr. Tatsuo Miyazaki
(神戸インド祭実行委員会委員長)
(神戸市長)
(Chairman of the Executive Committee for Festival of India in Kobe)
(Mayor of Kobe City)

18:35 公演開始
Opening of the Performance

- ①シヴァに捧げる祈り
Invocation to Shiva
- ②ドール・チョーラム
Dhol Cholom
- ③オディシー(東インドの古典舞踊)
Odissi
- A マンガラチャラナ
Mangalacharana
- B アシュタパティ
Ashtapadi
- C パールルヴィ
Pallavi

- ダガル兄弟による歌唱
Dagar Brothers
- ジャゴイ・マルップ舞踏団
Manipuri Jagor Marup troupe
- ケールチャラン・モハパトラ
Kelucharan Mohapatra
- ケールチャラン・モハパトラ
Kelucharan Mohapatra
- アロカ・カヌンゴヒアナンディ・ラームチャンドラン
Aloka Kanungo & Anandi Ramachandran

休憩 (10分)
INTERVAL (10 mts)

④フルート演奏
Flute
⑤ブング・チョーラム
Pung Cholom

20:30 公演終了
Closing

- パンデット・ハリ・プラサード・チャウラシア
Hariprasad Chaurasia
- ジャゴイ・マルップ舞踏団
Manipuri Jagor Marup troupe

神戸インド祭実行委員会

(顧問)

兵庫県知事
神戸市長
神戸商工会議所会頭
在神戸インド総領事
兵庫県立近代美術館長

貝原俊民
宮崎辰雄
石野信一
D. V. モハン
金井元彦

(委員会)

委員長	(財)神戸国際交流協会会長	宮崎辰雄
副委員長	関西日印文化協会	会長 桑原泰葉
委員	兵庫県知事公室長 神戸市経済局長 兵庫県立近代美術館 神戸商工会議所 (財)神戸市民文化振興財団 インディアンコミュニティー エーインディア西日本韓国 (株)神戸国際会館 事務局長	村上幹直 岡崎典昭 次長 増田洋 専務理事 石原拓二 専務理事 弓倉恒男 代表 J. S. チャッダ 地区支配人 K. K. グプタ 取締役社長 井上浩三郎 事務理事 喜旦元和

<プブル・ジャヤカール女史略歴>

インド独立運動に参加。独立後、インドの手工芸品・織物産業発展に多大の貢献。
故インディラ・ガンジー首相と知己。
一九六八一七七年 手工芸品・手織機製品輸出公社總裁
一九七四一七七年 手工芸品府長官
一九七四一七八八年 国立デザイン研究所理事長
一九七五一七七年 家内工業公社總裁
一九七九年~現在 更紗織物博物館会長
一九八二年 英国におけるインド祭り諮問委員会委員長
一九八五一八六年 米国におけるインド祭り諮問委員会委員長
(現職) 首相顧問(文化資源・文化遺産)國務大臣待遇
インド文化関係評議会副会長
インド国立美術・文化遺産財団副總裁
日本におけるインド祭り諮問委員会委員長

創立30周年記念パーティー

1989. 4. 7. 於インディアン・

ソシアル・ソサエティー

あいさつ



関西日印文化協会
会長 桑原 泰業氏



インド総領事
D. V. モハン氏



兵庫県副知事
三木 真一氏



神戸市助役
赤坂 典昭氏



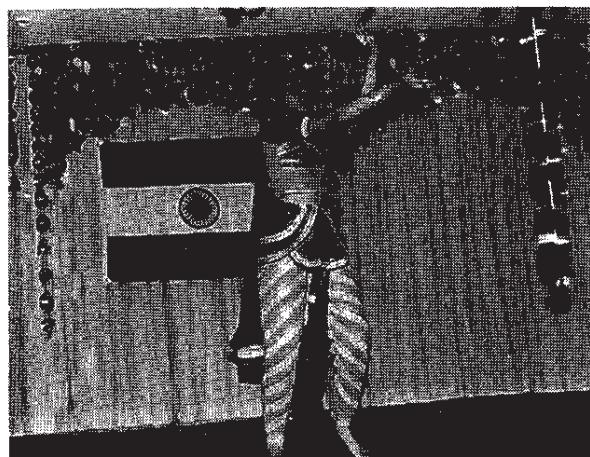
会場風景



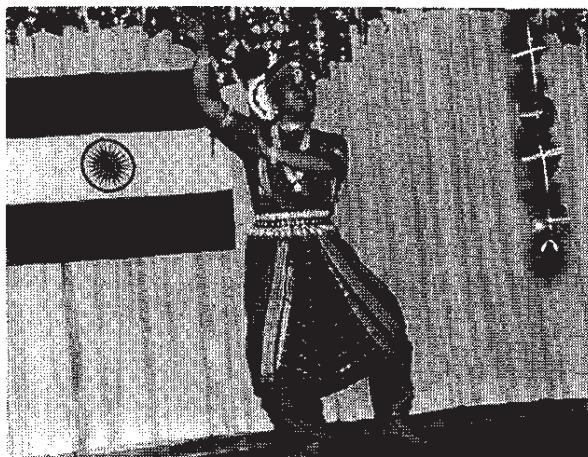
あいさつ 桑原会長



モハン総領事より記念品を桑原会長に贈呈



インド民族舞踊 サブナ・ジャベリーさん



インド古典舞踊 小沢 陽子さん

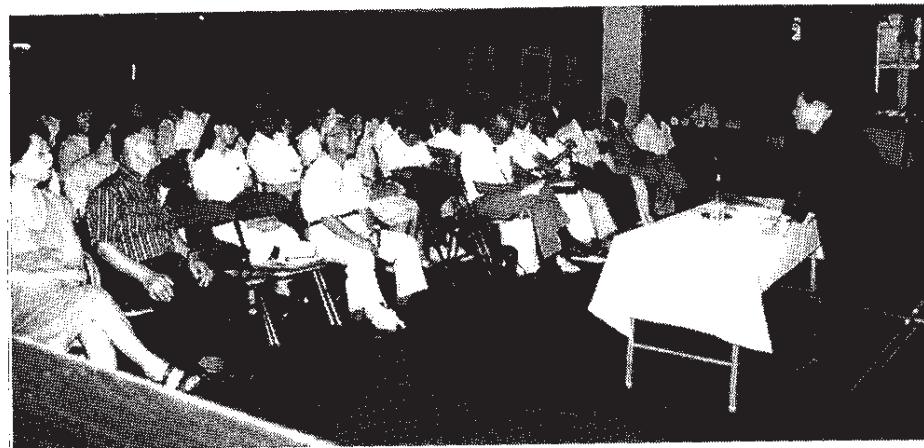


あいさつ モハン総領事

30年の歩み…スナップ集



35.11.2. メロートラ大使夫妻を迎えて オリエンタルホテルにて



マハトマ・ガンジー講演会
名城大学教授（当協会理事）
森本 達雄氏
59.8.10 インドクラブ



神戸市における
「一日外務省」
外務大臣倉成正氏と桑原会長
62.1.9.



三笠宮崇仁殿下 神戸北野ジャイナ寺院におなり、記念誌を献上する桑原会長



62. 4.20.



インド音楽界の生き神さま！



ヴィーナ奏者 S・バラチャンデル
57. 3.20. 神戸市勤労会館



M・ヒダヤトウラ副大統領(中央)

56.10.19.

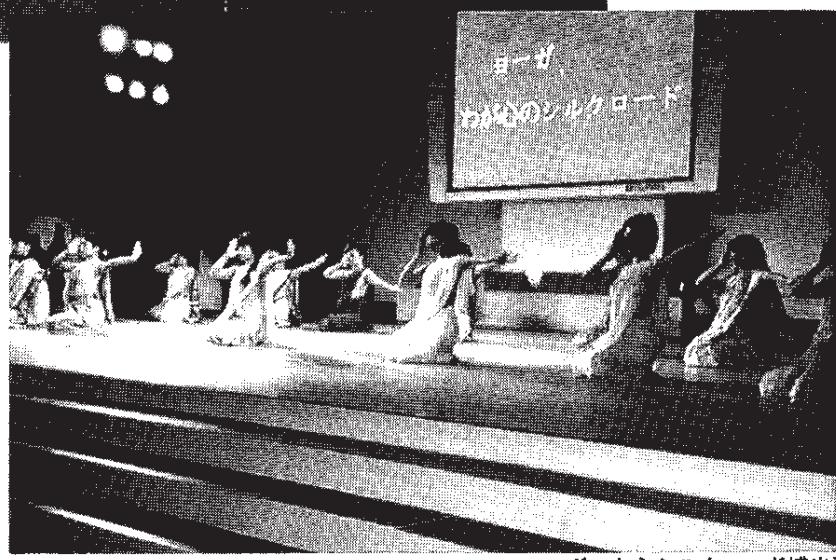
インディアン・ソシアルソサエティーにて
左側 桑原会長
右側 スリバスタバインド総領事



文化講演会 スリバスタバインド総領事と桑原会長



ネル一生誕百年記念児童
兵庫県民会館展示場
63. 1.25.~30



ヨーガ ならシルクロード博出演
63. 5. 23.



61. 1.25.
同式典であいさつする
貝原俊民兵庫県知事

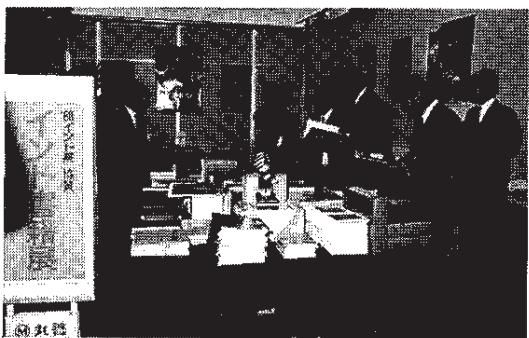
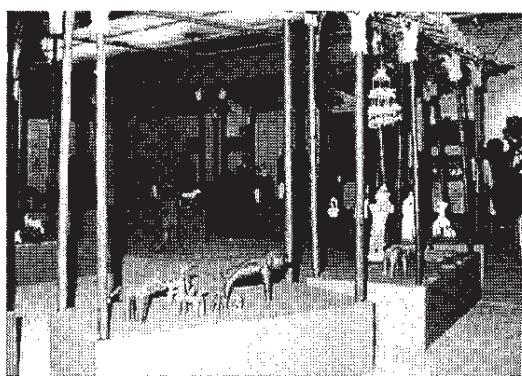


ディパブリック・ディー 63. 1.25. インドクラブ
左より 桑原会長、モハン総領事、トルシーインディアンソシアルソサエティー会
チャダ、インドクラブ会長、深田大使

'88インド祭（神戸）開会式、兵庫県立近代美術館
(テープカット)



(インド祭諮詢委員会、
ジャヤカール委員長を出迎える桑原会長)



インド書籍展 丸善、神戸店ギャラリーにて
62. 4.21.~26



中井一夫顧問と談笑するマーダバン駐日インド大使

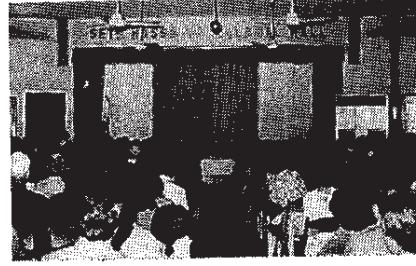


インド文化大講演会
協会顧問 中村元博士
神戸ポートピアホテル
62. 6.24.
神戸新聞情報文化懇話会と共に催す





インド舞踊界の人間国宝 スプラマニアン公演 55.11.14. 県民小劇場 11/15インディアン・ソシアルソサエティー



会場風景



K. Nパニカール舞踊団カタカリ公演
57. 8. 3. 兵庫県民会館

ディバブリック・ディー 兵庫県知事
左より B.Sセティー 坂井時忠氏 桑原会長
59. 1. 25. インドクラブにて



ヨーガフェスティバル 演ずるは土井弘子ヨガスクール
左より マハジャン総領事、同夫人、桑原会長



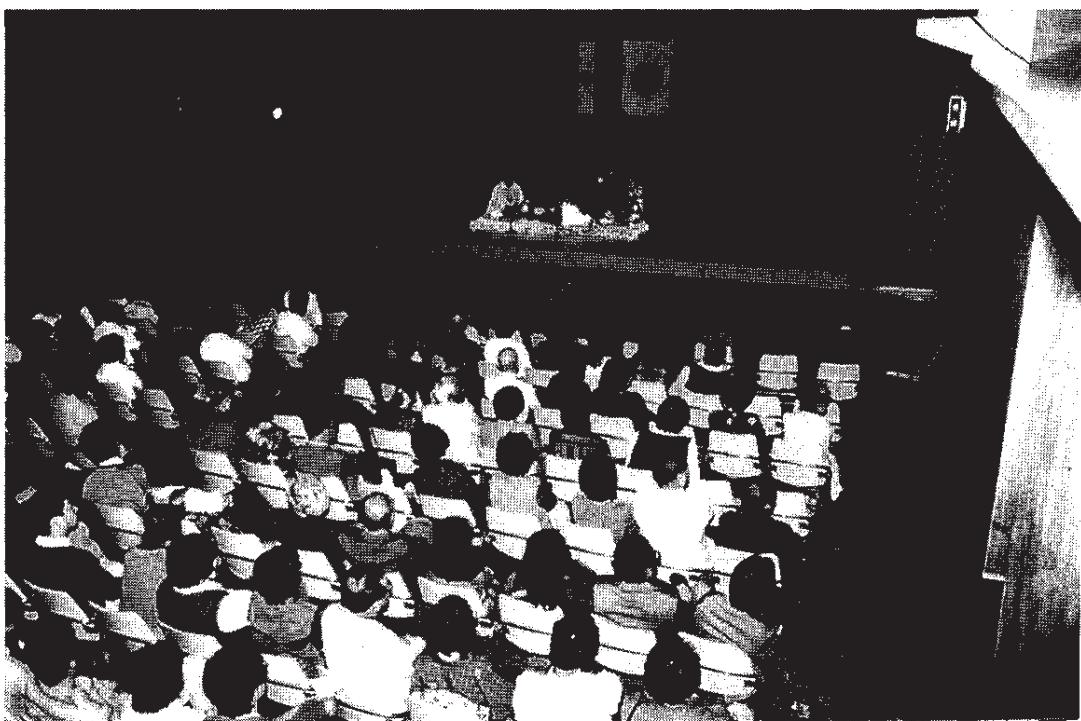
サン・ジュクタ・バニクヒ舞踊団
オディッシュダンス 58. 8. 9. 兵庫県民会館



キツショール・ゴッシュ シタール演奏会



マハトマ・ガンディー写真展 ギャラリーさんちか
59. 8. 9. ~14

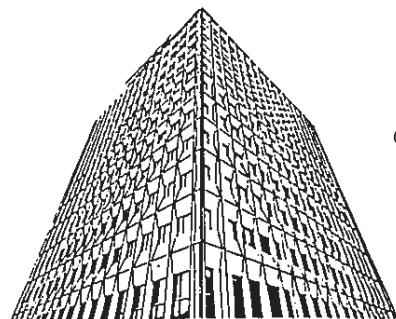


兵庫県民会館

財団法人 兵庫県海外協会

会長 貝原 俊民

神戸市中央区下山手通 5 丁目 10-1
兵庫県西庁舎内
電話 (078) 341-7402



会議・集会に、作品の展示発表や
結婚式、各種祝賀パーティーの催しに

みなさまのご利用を
お待ち申し上げます。

兵庫県民会館

神戸市中央区下山手 4 丁目 TEL.(078)321-2131

アートホール 神戸

ギャラリー
展示会に



兵庫県学校厚生会館 1F の設備のととのった
ホールです。グループ展・個展などに、ぜひご利用
ください。 [有効面積 201m² (60坪)
有料駐車場完備]

お申し込みは

兵庫県学校厚生会

神戸市中央区北長狭通 4 丁目 7 番 34 号
（代表）078-331-9955

（交通のご案内）

- JR 元町・阪神元町駅東口から、北へ徒歩 1 分
- 地下鉄山手（県庁前）駅から、南東へ徒歩 5 分



2,000 名の大ホール
10 名～200 名の会議室

神戸国際会館

④ 651 神戸市中央区御幸通 8 丁目 1-6

Tel (078) 251-8161 (総務部)
251-8171 (営業本部)

CONVENTION CITY KOBE-JAPAN



神戸コンベンションセンター

神戸でのコンベンションを成功させるために—
神戸開催のお手伝いをします。

神戸市コンベンション推進事業本部

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目9番地の1
神戸国際会議場内 TEL(078)303-0090
FAX(078)302-6485
(財)神戸国際交流協会コンベンション事業部

神戸文化情報誌

KOBE C 情報 美術/音楽/演劇/催し 毎月25日発行

神戸フィルハーモニック・神戸室内合奏団

神戸文化ホール ☎078-351-3535

東灘文化センター ☎078-453-0151

葺合文化センター ☎078-242-0414

生田文化会館 ☎078-382-0861

北区民センター ☎078-593-1150

須磨区民センター ☎078-735-7641

北須磨文化センター ☎078-791-0840

丸山コミュニティセンター ☎078-642-3447



〒650 神戸市中央区三宮町1-9-1 センタープラザ東館8F PHONE (078) 332-3320(代) FAX (078) 332-6564



音楽がある。仲間がいる。
財団法人民主音楽協会



●神戸サービスセンター

〒651 神戸市中央区御幸通り8-1-6 神戸国際会館3F
☎078(251)7447

●京都サービスセンター

〒602 京都市上京区丸太町通堀川西入ル
京都二条ハイツ岡忠ビル2F ☎075(821)3165

聖森古典研究所

会長 萩木基則

〒631 奈良市二名町1643

PHONE 0742-43-2002

■レグルス文庫 マハーバーラタ

コラージュ／バーラーチャリ／著
奈良毅・田中綱玉／訳 ●定価(各)680円
古代インドが生んだ世界最大の叙事詩として
人類の遺産に数えられる「マハーバーラタ」を
現代インドの人々にわかりやすく書き直した
英語版テキストから翻訳。

ラーマーヤナ

河田清史／著 ●定価(各)580円

（インド古典物語）
インド伝説の英雄ラーマを主人公とする物語
語、インドの二大古典叙事詩の一つ「ラーマーヤナ」は、インドの誇る最高の世界文学の一つ。
本編のところを語つ（インドの詩聖）
邦最初の本格的著作集待望の配本！

タゴール著作集



■第10回配本(第10巻)

●定価(各)5300円
全十一巻

自伝・回想・旅行記

解説鶴見俊輔 編集 森本達雄
人間タゴールと詩人・哲学者タゴー
ルとを結ぶ精神の自画像。自らの
精神のヴィジョンを深めひろげる情
熱に駆り立てられた求道の旅の記録
タゴール文学の本質を照射する
自伝回想稿文から7篇を収録。

第三文明社

〒101 東京都千代田区三崎町1-1-9
☎03(294)8731㈹振替 東京5-117823

比較思想から見た仏教 —中村元博士英文論集邦訳シリーズ1—	春日屋伸昌編訳 1800円(税250)
日本思想史 —中村元博士英文論集邦訳シリーズ2—	春日屋伸昌編訳 2000円(税300)
ヨーガの知恵	山口惠照著 1400円(税250)
古代インドの文化と文明 K.C.チャクラヴァルティ 橋本芳契・橋本契訳 2800円(税300)	
法華經一仏乗の思想 —インド初期大乗仏教研究—	苅谷定彦著 8000円(税300)

陀羅尼思想の研究 氏家覚勝著
2800円(税300)

東の科学 西の科学 菅野礼司・岩崎允胤ほか
1800円(税250)

近刊 インド伝統医学入門 アーユルヴェーダ研究会編
(仮) —アーユルヴェーダの世界— 丸山博監修

近刊 (仮) インドの鍊金術 佐藤任・小森田精子編訳

〒530 大阪市北区西天満3-2-4
☎06(365)5421・振替大阪4-20522 東方出版

No.5特集—宗教のオントロギー	季刊
対談宗教の根拠井上忠×田中小美昌	
岩田慶治・奈良康明・鎌田東一・宮	
田登・植島啓治ほか 二二〇円	
別冊No.1特集—親鸞 (11月末刊)	
梅原猛・五味文彦・松永伍一・河田	
光夫・荒木美智雄・八木誠一・長谷	
正當・河合隼雄ほか 一三〇円	

総合佛大辭典教

全3巻 定価5300円
編集委員 横超・多屋・舟橋・藤島
井ノ口・鎌田・桜部・薗田

総項目数一万二千、仏教文化圈を広
範囲にカバーした本格的仏教大辞典
*中小項目方式で、仏教の思想や考
え方を体系的、立体的に理解できる
*四万七千項目の詳細索引、主要収
書目録を別冊第3巻として収録。
*理解をたすける図版を多数挿入。
*読みやすい10点活字。中性紙使用

法藏館
京都市下京区正面鳥丸東入
電話(075)217-5121 目録呈

書籍 文具 教材 電子計算機 眼鏡

M 丸善

神戸支店

神戸市中央区元町通1 ☎(078)391-6001

姫路出張所

姫路市中二階町27 ☎(0792)22-2313

住吉流華道家元 西村雲華

神戸市中央区野崎通 3-3-21

TEL 078-221-6239

IKebana-Moribana of **CHIKŌ-SCHOOL**

Headmistress: mrs. Kohbai Naruse
3-4, 2-chome Fukadacho, Nada-ku Kobe, 657
Tel. (078) 851-8113

祝創立三〇周年

不意の冠婚葬祭にあわてないための実用教本。

日本の(きたり)

B5判(豪華ケース入り)

和装袋糸綴製本

頒布価格 3,500円

+送料は実費申し受けます。

監修 松田南窓

出版元

南窓出版株式会社

大阪市東区久太郎町1-8 三星ビル8F 809

TEL (06) 264-5762(代) FAX (06) 262-0647

自然に親しみ、人間を愛す！

姫路学院女子短期大学

英文科

児童教育科

学長 溝田弘利

兵庫県神崎郡福崎町高岡

TEL (0790) 22-2620(代表)

OPEN YOUR BODY, MIND, & SPIRIT



国際ヨガ協会

〒532 大阪市淀川区宮原4丁目4-50 真和ビル TEL: 06(395)0550(大代)



土井弘子 総合ヨガ美容スクール

本部 神戸市中央区東町112 東町ビル 406号室

TEL (078) 322-2664

坂口インドヨガ研修会

主宰 坂口曜子

〒532 大阪市淀川区十三本町3-6-3

レック淀川1005

TEL (06) 303-7947

Who are you?

今のあなたは本当の

あなたではない!!

あなたは {
 もつと健康なはず
 もつと美しいはず
 もつと強いはず
 もつと楽しいはず



森垣ヨガ学院

院長 森垣繁

神戸市長田区北町2丁目

山陽長田ビル7F

高速長田駅下車駅ビル

☎078-577-5336

ライフ・クリエーション

個性美学研究会



日本尚美会 会長 松原安治

日本個性美学研究所

〒501-61 岐阜県羽島郡笠松町西宮町1 TEL:05838(7) 3656

連絡先 尚美会グループ(全日本和装協会・国際ヨガ協会)総本部内

〒532 大阪市淀川区宮原4丁目4-50 真和ビル TEL:06(395)0550(大代)



インドブティック

ハヤシザリー

結婚式

シルクサリー

卒業式

パンジャビスーツ

謝恩会

アクセサリー

いろいろなパーティに
華やかなサリーを
おすすめします。

楽しいインドグッズが
沢山揃っています。
(サリー着付け、記念撮影します)

神戸市中央区中山手通2丁目15の13(山勝真珠前)

TEL (078) 221-2989



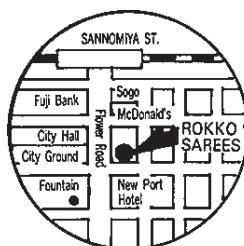
ROKKO SAREES

Your passport to Elegance in Kobe —
Famous for Japanese-Made
Textiles and Sarees

2-1, 4-chome, Isobe Dori,
Chuo-ku, Kobe, Japan 651
Kobe (078) 251-6440
Res. (078) 861-0744

ROKKO SAREES

For TAXI DRIVER: TURN LEFT BEFORE NEW PORT HOTEL



日本交通公社から JTB へ



For Your Travelife

JTB 神戸三ノ宮支店

神戸新聞会館 5F
TEL: 078(252)1017

Asahi
LIVE ASAMI FOR LIVE PEOPLE

この味が、
ビールの流れを変えた。

アサヒスーパードライ

価格はふつうのビールと同じです。



飲むほどにDRY
辛口、生。

アサヒビール株式会社

神戸・灘
菊正宗酒造株式会社

菊正宗

辛口ひとすじ



料理がいきる
辛口の本格派

いいお味でコミュニケーション

西の国も東の国も
ヒガシマルでグッドテースト！

ヒガシマル醤油

さみぐち *

*

*

*

*

*

*



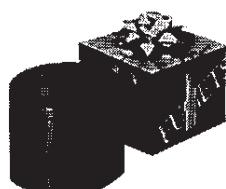
HIGASHIMARU

うすくちは控えめに お使いください

*醸造元 兵庫県鳴門市 ヒガシマル醤油株式会社

いいものは時代をこえて生き続けます

ゴーフル



神戸の味を世界の味に創りあげたゴーフル。
神戸鳳月堂の歩みとともに生まれ育った味覚の芸術品です。ほろほろと軽い2枚の洋風せんべいに、バニラ、ストロベリー、チョコレートのクリームをサンドしたさわやかな風味は、ひろく愛されています。



神戸鳳月堂

本社 神戸市中央区元町通3丁目3-10 ☎(078)321-5555

創業安政2年

神戸銘菓

岡女堂の甘納豆

本社 神戸福原口

TEL.(078) 575-5536(代)

さんちかスイーツタウン

直売店 梅田三番街・大阪国際空港

各百貨店・県民会館店



お茶の

菅園

すが
えん

本店／神戸市中央区多聞通3-2-15

TEL(078)341-1401(代表)

FAX(078)341-2210

外商部／神戸市東灘区深江浜町99

TEL(078)452-3908

FAX(078)452-3909



名代うどんすき
を深
すすむ

お祝、仏事、会議、会合、クラス会等
のお食事の御用命は

中央区下山手通5丁目9-9

花隈駐車場上る

□ (341) 8624

お気軽に
お電話下さい。



仕出し料理店

花隈

中央区花隈町3-25

□341-2024・1148

会席料理
松花堂弁当
手まり弁当
幕の内弁当
うなぎ
折
オードブル

会席、幕内、寿し

寿し竹名物 うの花寿し、特製うら巻き寿し

山陽電鉄 須磨寺駅山側、須磨寺駅前本通り東側

寿し竹 TEL 731-1005(代)

宝石・貴金属輸入・研磨加工卸



宝塚市梅野町1番60号 宝塚ホテル内407号

TEL 宝塚(0797) 85-0511

TEL 宝塚(0797) 87-1151 (内線407)

貴女の個性を生かした
素晴らしいスタイル!!
着心地の良さ!!

〈婦人服地・お仕立〉

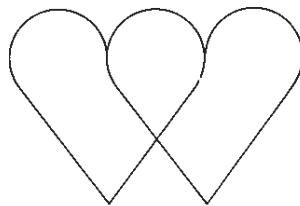
洋装店 ナカヤマ

【鈴蘭台店】 神戸市北区鈴蘭台北町1丁目10-2
(定休日 木曜日) (鈴蘭台プラザ2F)

TEL (078) 592-3909

【学校店】 神戸女子洋裁専門学校隣り
(定休日 木曜日) TEL (078) 652-0620

晴れの日のお支度に……



伝統の和装から、世界一流ブランドの洋装まで、
豊富にコレクションいたしております。

大丸前
つゝや衣裳店

〒650 神戸市中央区三宮町3丁目1-9 ☎(078)321-0360(代)

神戸ポートピアホテル衣裳室
ピアンカスボーザ ☎(078)302-3378
シュバリエ ☎(078)302-1051
橋公会館衣裳室 ☎(078)382-0160
兵庫県民会館衣裳室 ☎(078)321-2131
ゴーフルポートピア'88 ☎(078)302-5555
国際会館宴会場衣裳室 ☎(078)221-8051
新神戸オリエンタルホテル衣裳室
アソリティ ☎(078)262-2908

美容及着付



本店みどり美粧院
吉田美津枝

本店 神戸市中央区北長狭通1丁目10番5号

電話 331-1243 ファックス 331-1226

PHOTO STUDIO YAMAMOTO

○人生のライフサイクルを記録、お宮参り、七五三、入学、卒業、成人式、見合、結婚式、叙勲、証明写真等○ロケーションポートレート…すてきな場所で貴女のチャーミングをキャッチ○アルバム企画制作
○出張写真○生田神社会館結婚式場御指定

山本写真館

生田神社すぐ前

☎(078)331-4254(代)



Nakagawayaya

靴の中川屋

Kobe in JAPAN



しんかいち店 神戸市兵庫区新開地2丁目4-18 (毎週水曜日)
〒652 TEL. 078(575)3612 (定休日)

さんちか店 神戸三宮さんちかカジュアルコート内 (第3水曜日)
〒650 TEL. 078(391)3744 (定休日)



全国に、あなたの花が贈れます。
フジテレビフラワーシップ加盟店

有限会社

順 花 園

本店 〒650 神戸市中央区三宮町8-12

TEL 078-391-1098

FAX 078-391-7076

- オープン祝花・ブライダルブーケ
- 各種/パーティ等出張アレンジメント
- 貸植木・造園
- 各流派稽古花
- ご供花



"MILKY HOUSE MILKY CLUB"

★袋物(巾着、スクールバッグ等etc.)・ハンカチ・財布

ファンシ商品企画・販売メーカー

WORLD GOODS CO.,LTD.

ワールドグッズ株式会社

〒542 大阪市東住吉区鷹合3丁目1番15号

TEL (06) 696-7587番

バッヂ、優勝カップ、トロフィー、楯、旗、腕章、造花
Xマスデコレーション、プラスチック製品各種

株式会社 毛利マーク

〒650 神戸市中央区三宮町2丁目10-21
(三宮センター街2丁目)
TEL(078) 331-0874・7311
FAX(078) 332-4705

高級美術印刷から包装まで

印刷全般、包装資材の加工販売並に油脂製品、トイレタリー商品の包装を行う会社です。



株式会社 大 伸

本社 神戸市兵庫区塚本通4丁目1番19号 TEL(078)575-6839代
取締役社長 石坪脩



メゾンオーラ

ゆたかな国際感覚を住まいに生かす

住宅事業部 ホテル事業部 リゾート&レジャー事業部 国際事業部 賃貸事業部



オーラコーポレーション株式会社

〒110 東京都台東区東上野4丁目1番18号 ヒラコビル2 ☎03(842)6871(代表)
営業所／沖縄：浦添市字港川272-1 ☎0988(78)7515
青森：青森市新町1-8-26 青港ビル3F ☎0177(76)1331
出張所／札幌・長野・神戸

土地・建物・法人・各種登記
売買・相続・贈与他・測量・調査

司法書士 横山啓三 土地家屋調査士

〒657 神戸市灘区將軍通4丁目1-3 (灘区役所前バス停北向い)
☎ (078) 881-0080 (代表)
FAX (078) 881-2748



株
式
会
社

奥野工務店

OKUNO CONSTRUCTION CO.,LTD.

本 社 神戸市中央区二宮町2丁目10番7号 扇都ビルディング

TEL 神戸(078)222-1462 (代表)

FAX 神戸(078)221-4708



株
式
会
社

総合建設業 宮田組

代表取締役 宮田禮彰

■ 652 神戸市兵庫区荒田町1丁目1-11 電話 神戸(078)511-5025 (代表)
ファクシミリ CII・III (078) 511-1865

明るい住いづくり……Glass 明るい経営……建材総合商社

建設許可番号

神戸市中央区小野柄通5丁目1番12号

建設大臣許可(般49) 第3736号

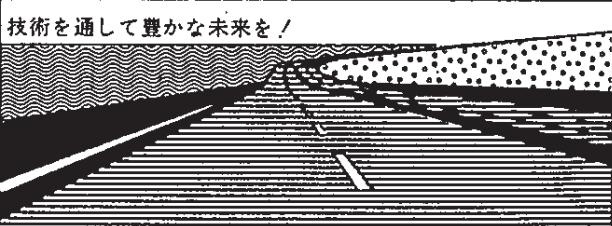
櫻野石灰工業株式会社神戸支店

電話 神戸(078)291-0501-0504

取締役 藤本邦明
支店長



株式会社 兵庫開発コンサルタント



=業務案内=
測量全般
土木設計
補償コンサルタント
施工管理

神戸市長田区西山町3丁目12番7号
電話(078)691-1304 (代)〒653

代表取締役 植月重憲

緒方耳鼻咽喉科

緒方重郎

〒650 神戸市中央区中町通3丁目1番17号 TEL 341-3711

魚川歯科診療所

魚川正美

診療所 姫路市駅前町 222

駅前第1ビル7F 0792-84-3543

中国無錫市中医医院留学 医術交流大成 学術交流大成

日本指圧

安心と信頼の健康指圧

河井指圧院

日本指圧師 院長 河井省三

施術時間 午前9時～午後3時(月曜木曜休院)

神戸市須磨区須磨浦通5丁目6-23 ☎ (078) 733-5960
〔サンビルハイツ2F-A〕 (浪サン ゴクロー)

横山整骨院

福岡市城南区飯倉1-6-33 TEL.(092)851-5951 院長 横山修

FAX(092)841-1300

社団法人 福岡県柔道整復師会々長

結婚式・地鎮祭・その他・神事全般

よの みや
四 宮 神 社
一弁 財 天一

兵 庫 県 庁 前

神戸市中央区中山手通 5-2-13 電話 (382) 0438番

家庭用神棚、会社、事務所用

神殿祭器具類一式販売

神戸で一番古い神具の総合メーカー

辰 宮 辰 神 具 店

神戸市中央区北長狭通2丁目4番5号(大永ビル3F)

TEL (078) 331-1305・1119 自宅 (078) 742-0257

京仏壇、仏具



朝に礼拝夕に感謝

本社 あみだ堂

センター ブラザ (西館1、2F)
☎ 331 { 1125
787

支店 まんだらや

三宮町3丁目(トア・ロード)
☎ 331-8616

あみだ堂 川西店

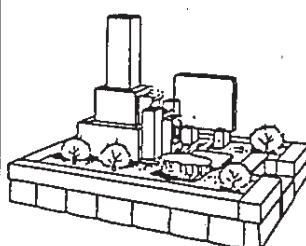
川西市栄町1番1号
☎ 0727(57) 5522

墓地と墓石

神戸市石材業組合加盟店



新神戸石材



営業種目—各宗墓碑・記念碑・石材工事・お納骨・法名彫入れ・修理
墓地申込手続き及び現地案内無料・やすらぎローン取扱い

神戸市兵庫区湊川町8丁目9-2

Tel (078) 521-3169(代) FAX(078) 521-3171

安田生命保険相互会社

神 戸 支 社

郵便番号 650

神戸市中央区栄町通 2-7-1

電話 078 (331) 9601

人生80年時代、痴呆患者5人に1人がん患者3人に1人も！



生命保険商品では初の
85日経年間最優秀製品賞受賞

みんなが安心の終身保障

■痴ほう介護保険
痴呆介護給付金付終身保険

■新・がん保険

お問い合わせ・お申し込みは

〒650 神戸市中央区元町通2丁目7番6号

アメリカンファミリー 伊藤育興産株式会社 保険部 TEL (078) 321-2610

==== 植物性有機ゲルマニウム 靈芝 ===

(RH) REISHI

ロイヤルヘルパー 難波 保 隆

〒658 神戸市東灘区本庄町2丁目4の11ルアセン深江

TEL (078) 452-9381代



サービスネット関西12店・関東7店

神栄石野証券

本店／神戸市中央区浪花町27番地
☎078-391-0001(代表)

みうりは夢のくらりです。

農業及び家庭園芸肥料
輸出入、生産、販売

旭化学工業株式会社

大阪市東住吉区北田辺4-15-1

電話：07457-4-1131

FAX：07457-4-1961

TELEX：05524669ATONIK

石油・石炭・液化ガス

正興産業(株)

取締役社長 秋田博正

〒652 西宮市久保町2番1号
TEL 0798-22-2701

東京・鹿島・仙台

ちょっとしたグループでお出かけのお楽しみに便利で割安！

いつでも早くに
何時でも早急に
☎ 577-3535

ジャンボタクシー9人乗り



○ビジネスに…

○観光はガイドの出来る乗務員が担当します

○冠婚葬祭に…

サービスをモットーに
本社・神戸市兵庫区水木通10丁目2番15号

大開タクシーへ



グローバルなセキュリティースピリットとは当社の誇りです。
イノベーション時代に対応するサイエンスセキュリティーを貴方へ！

総合安全管理業 SNSスーパー 環境衛生管理業

警備保証業 アラームシステム 防災設備事業

都市を守り、人を守る



新日本警備(株)

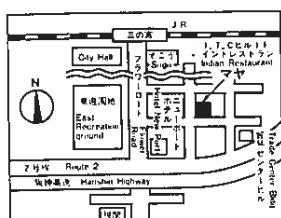
本社：神戸市中央区多聞通2丁目4番1号（中央ビル）

TEL神戸(078) 371-1586(代)

淡路営業所：兵庫県津名郡津名町志筑3112-32(伊達ビル)

TEL津名(0799) 62-2052(代)

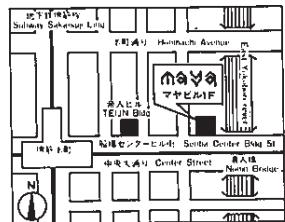
インドレストラン
マヤ



神戸市中央区磯辺通4丁目1-8
I.T.C Bldg. 1F 1
神戸本店 T E L 078(231)0703
フローラード南ニューホテルホテル
北東へ約50メートル

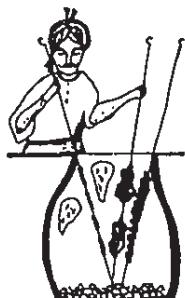
●営業時間
午前11時30分～午後2時30分
午後5時～午後10時

maya
INDIAN RESTAURANT



大阪市東区庶物町1丁目3番地
MAYA Bldg., No.1, 1F 1
大阪店 T E L 06 (266) 0701
帝人ビルから東へ約30メートル

●営業時間
午前11時30分～午後8時30分
日曜日定休

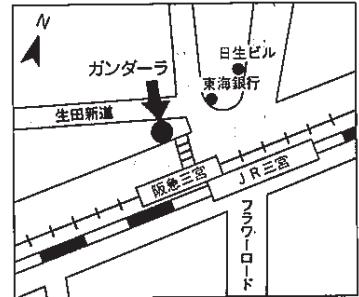


INDIAN RESTAURANT
GANDHARA ガンダーラ

インド料理 神戸 ガンダーラ
北野店: (078) 242-3377
熱海店: (0557) 81-9565
さんちか店

三宮駅前店

TEL 391-4975 神戸市中央区北長狭通1-2-3



山菜料理

六 爪



電話神戸 (078) 231-0406

風味一番 ワシワ六段

J R 三 宮 駅 山 側

松岡税務会計事務所

税理士 松岡 薫

神戸市長田区長田町 1-1-1-206

電話 6-91-7467 番

メガネの着替えは暮らしのマナー

メガネの愛眼[®]

商標登録番号第543854

本部 大阪市天王寺区大道4丁目9-12 TEL(06) 772-3383(代)

(北海道) (東北) (関東) (中部) (近畿) (中国) (四国) (九州)

コダカラー Gold 100 フィルム



コヤマカメラ



社団法人

日本ユネスコ協会連盟

会長 敷納 清

副会長 藤森鐵雄 中村秀子

理事長 栗野 凰

〒112 東京都文京区大塚3-5-1 朝日生命小石川ビル内

電話 03-944-5441

創立 1947年12月11日



KOBE UNESCO ASSOCIATION

神戸ユネスコ協会

会長 桑原泰業

〒651-11 神戸市北区鈴蘭台東町9丁目7番26号

電話 078-591-5633

THE INDIAN COMMUNITY IN KANSAI

THE INDIAN CHAMBER OF COMMERCE—JAPAN
THE INDIAN SOCIAL SOCIETY
THE INDIA CLUB

IMPERIAL TRADING Co.,L LTD.

EXPORTERS & IMPORTERS

P . O . Box HIGASHI 301
Osaka , Japan

CABLE ADDRESS
“IKONKAR”
TELEX
J 64722 IKONKAR

TEL .(06)266-1176
(06)264-5738/9
FAX .(06)266-8644

With the Compliments
of
JUPITER INTERNATIONAL CORP.

PORT P . O . BOX NO. 572
KOBE-(JAPAN)

CABLE ADDRESS:
“JUPITERSTAR” KOBE
TELEX: J78609 NISCHAL
FAX: (078) 392-0988

TELEPHONE:
KOBE(078) 392-0987

MAGANLAL NAGINDAS & CO .,(JAPAN)LTD .
EXPORTERS IMPORTERS & MANUFACTURERS REP .

PRESIDENT
G . RAMANLAL

MANAGER
MAHESH H . JOSHI

EDOMACHI BLDG ., 528
98, EDOMACHI ,
CHUO-KU , KOBE , 650 , JAPAN
PORT P . O . BOX 583, KOBE

CABLE “KAPALTEX” KOBE
TELEX NO ~C/O J 78450 “KOBINBTH”
ATTN , KOB-107/MAGANL
FAX:(078)332-4863

TELEPHONE
OFFICE KOBE(078)332-4861
RESIDENCE(078)241-6060

GREETINGS FROM
M. NATHURMAL BROS.

PORt P.O. BOX 645,
KOBE, JAPAN

CABLE ADDRESS
"NATHURMAL" KOBE
TELEX
J78859 MONACAL

TEL: (078)232-1823/6
FAX: (078)232-0702

GREETINGS
ON
THIRTYTH ANIVERSARY
JAPAN INDIA CULTURAL SOCIETY
FROM
ORIENT PEARL CO., LTD.
S. R. CHODHRY FAMILY
KOBE

Precious Pearls Export Co.

Office: 1-18 Kitano-cho, 3-Chome Chuo-ku, Kobe.

Ramsons House 2nd Floor

Mail address: P.O. Box 979 Kobe Port, Kobe, 651-01 Japan

Tel:(078)222-6600

222-6611

231-6844

Cables: "PALLAVI", "FUSIRA" &
PEARLSBRIGHT" KOBE.

Telex: J78450 KOBINBTH
ATTN. KOB-338

Specialties

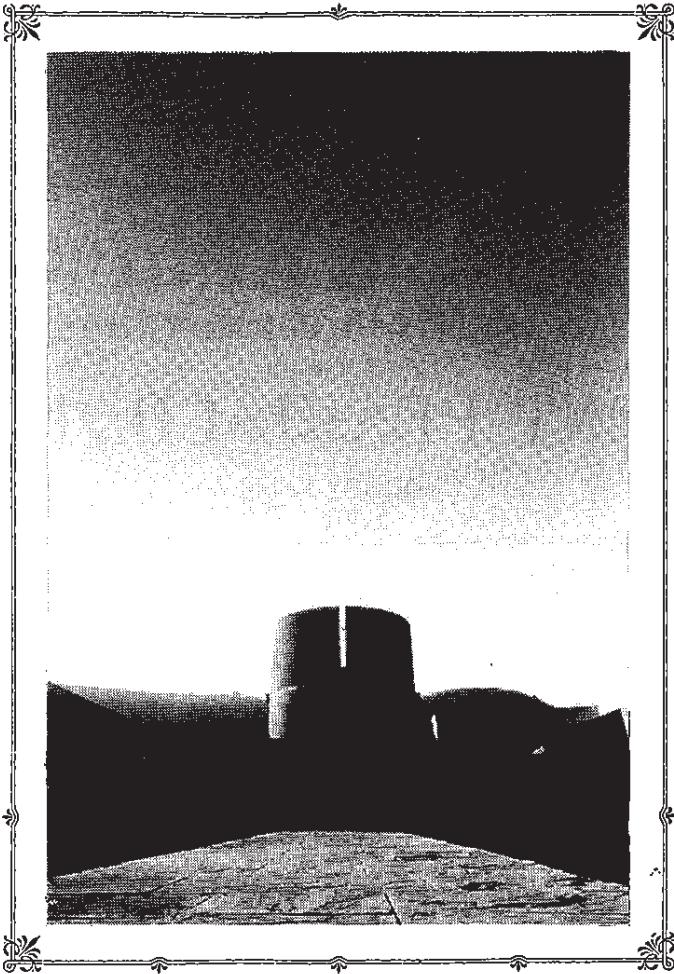
SOUTH SEAPEARLS, JEWELRIES & CARVINGS CORALS, PEARLS-CULTURED, CHINA
PEARLS, BIWAKO PEARLS, KESHIPEARLS, & MABEPEARLS.

WITH COMPLIMENTS
OF
UNIVERSAL PEARL CORPORATION
(Mr. L. D. JHAVERI)

2-8 KITANO-CHO, 3-CHOME, EVEREST, CHUO-KU
KOBE, JAPAN

T N. 231-2365

お駆辺さまご説法の地ラージギルに 法華俱楽部



仏教発祥の国・インド、

そしてお駆辺様ご説法の地・ビハール州ラージギル。

古代仏教遺跡が数多く残るラージギル靈鷲山の麓、ホテル法華クラブ・ラージギルは
インド仮想巡回旅行の皆様に、日本と変わらぬ快適な宿泊施設、心をこめた和食をご用意して
日本人駐在員がおもてなしをさせていただきます。

Rajgir India

心をつくすホテル

法華クラブ

- 施設のご案内／地上3階 客室26室(和室20・洋室6)全室バス・トイレ付、81名収容《料飲施設》レストラン、ラウンジ、売店《その他の施設》大浴場
- ご予約・お問い合わせ／法華クラブ総合予約センター 03(823)4893 または、インド旅行のエキスパート・法華旅行開発 03(834)2576まで
- 観光のご案内／(ホテルよりバスにて)ブッダガヤへ(大塔・尼蓮禪河・前正覚山)3時間半、バトナへ2時間半、竹林精舎へ5分、ナーランダ大学跡へ30分、靈鷲山へ10分

Authentic Indian Cuisine



Gaylord

KOBE

SANNOMIYA
MEIJI SEIMEI BUILDING(Opposite City Hall's Flower Clock)
8-3-7, Isogami-dori, Chuo-ku, Kobe 651
Tel. (078) 251-4358, 7158

ashoka

OSAKA

B201, OSAKA MARU BIRU
9-20, Umeda-1, Kita-ku, Osaka
Tel: (06) 346-0333

PORT ISLAND
DAIEI PORT ISLAND SHOPPING CENTER
(Opposite Chuo Shimin Byoin)
3-2-6, Minatojima Nakamachi, Chuo-ku, Kobe 650
Tel. (078) 302-5728, 5729

KYOTO
3F., SIKUSUI BIRU
Nakano-cho Teramachi
Shijo-agaru, Nakagyo-ku, Kyoto
Tel: (075) 241-1318



GENEMACO
REGISTERED TRADE MARK

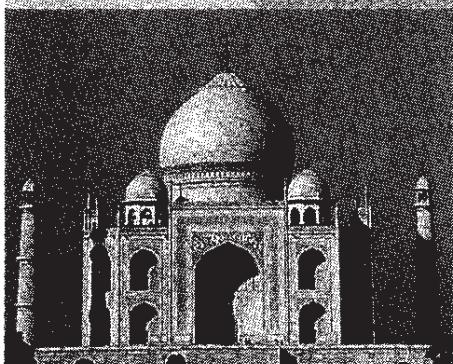


本場インドカレー パウダーミックス

このカレーパウダーミックスは、厳選されたスパイス／材料が素晴らしい味を出しますので、召し上ればきっとご満足頂ける優良食品です。材料には健康により薬草がたくさん入っています。そしてこの味覚を日本と極東諸国のお客様の御家庭にお届けしたいというのが私達の願いなのです。



わずかの時間でおいしい料理ができますので
共働きの奥様に大変
喜ばれています。



健康によりスパイスがたくさん入っています。
ルーとカレー粉を使う必要はありませんがルー状のとろみ
がお好みの方は、かたくり粉を水でといて入れて下さい。

株式会社 セネマココーポレーション

〒650 神戸市中央区加納町2丁目4-10 水木ビル6階
TEL (078) 222-0991~4 FAX (078) 222-0995



民事 刑事

Civil & Criminal

弁護士 中井一夫

Lawyer Kazuo Nakai

神戸市中央区多聞通2丁目3

電話 341局5800番

レストラン

La Vague ラヴェ

神戸商工貿易センタービル(24階)
電話 (078) 251-1961



中國料理
金龍閣
GOLDEN DRAGON

JR三宮駅前神戸新聞会館(7階)
電話 (078) 221-1616・3939

パーティーに
お食事に
神戸を見晴らす

ご結婚披露宴 各種パーティー
催し物はお気軽にご相談下さい



シンエーフーズ株式会社 〒651 神戸市中央区浜町通5丁目1-14 神戸商工貿易センタービル7F TEL 078-261-1541(代表)

創業 70 年  実績と信用

総合建設業

株式会社 **神崎組**

取締役社長 神崎 文一郎

本社 姫路市北条口3丁目22番地 電話 (0792) 23-2021(代表)
支店 東京、名古屋、大阪、神戸、九州

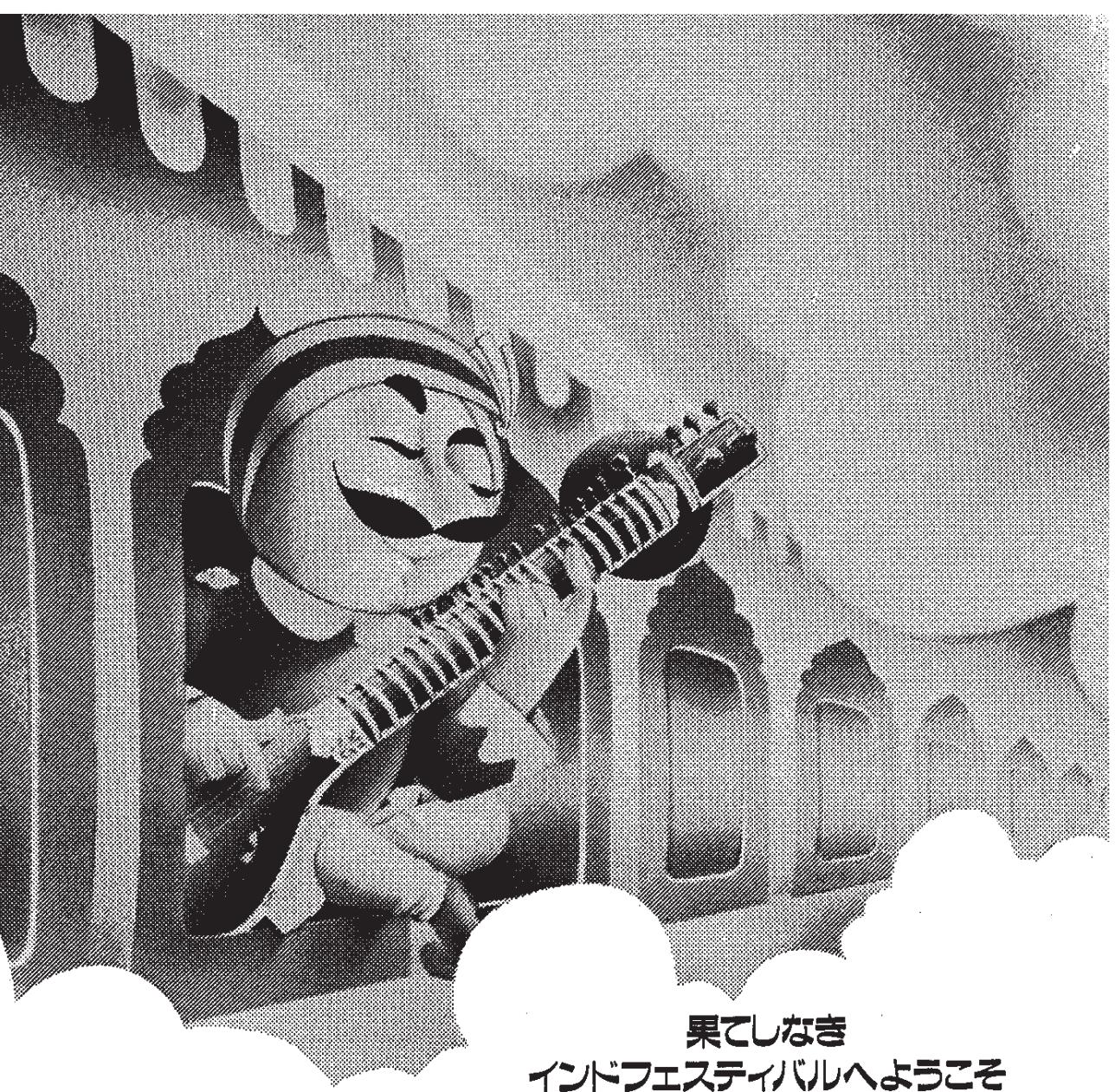
総合技術で未来をひらく三菱重工

主要製品 新造船 修繕船 鉄構製品 原子力発電プラント ボイラ
ディーゼル機関 公害防止機器 宇宙機器 建設機械



三菱重工業株式会社 神戸造船所

神戸市兵庫区和田崎町一丁目1番1号 〒652 神戸 (078) 672-3111(大代表)



果てしなき
インドフェスティバルへようこそ

エア・インディアはインドのお祭りを演出しました。

一步機内にはいりますと、

民族舞踊のインテリアが広がります。

インド音楽があなたの旅情をやさしくなくさめ、

エスニックなインド料理は、

グルメのあなたにもきっとご満足いただけるでしょう。

サリーをまとったエアホステスが

あなたをマハラーシャのようにおもてなしいたします。



AIR-INDIA

東京 03(214)1981 横浜 045(651)2874 名古屋 052(583)0747
大阪 06(264)1781 神戸 078(222)1919 福岡 092(471)7172